ヘルパー管理機

取扱説明書

K550 N

当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

関東農機株式会社

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように注意してください。

エンジン停止

チョークレバー

ガソリン燃料

専門用語の説明

O　燃料コック[開]

C　燃料コック[閉]

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安　全　第　一

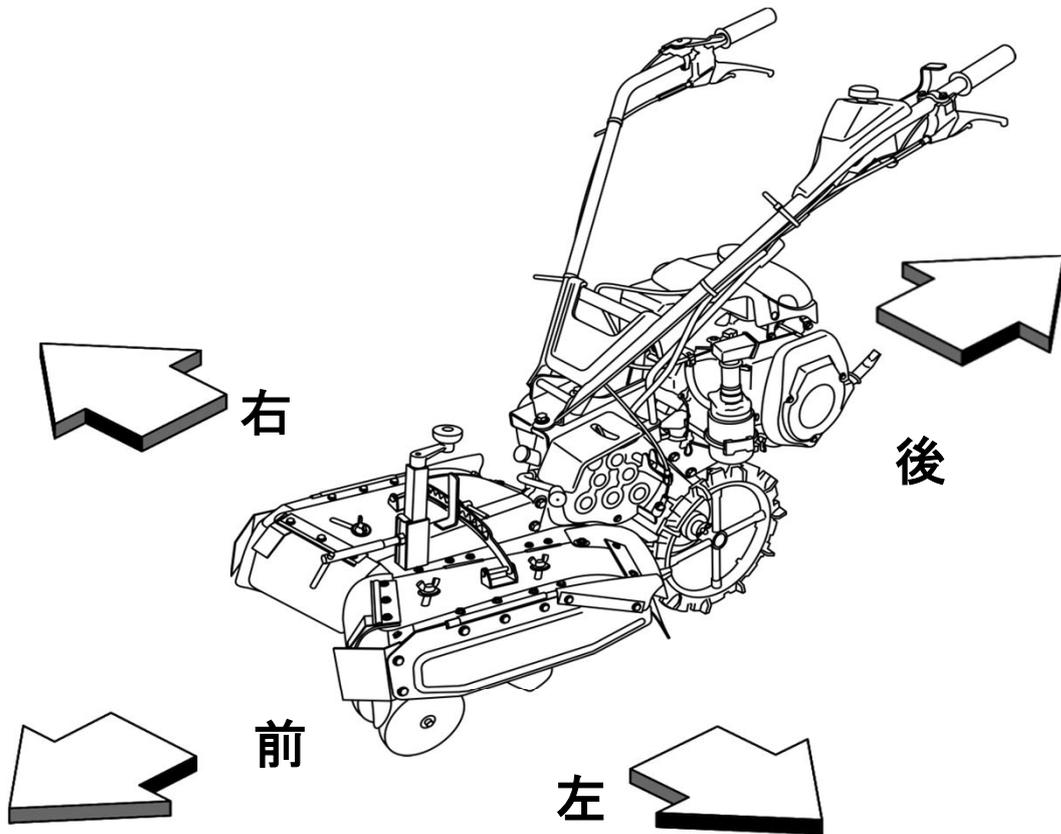
本書に記載した注意事項や機械に張られた⚠の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について
本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように説明しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。
⚠ **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。
⚠ **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを表示します。

目次

安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。
この「取扱説明書」で使用している＜前後、左右＞などの≪用語≫は図示のように決めています。

安全に作業するために

管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。

 危険　以下の項目に該当する人は、機械を使用しないでください

1. 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
2. 本書及びラベルの内容が理解できない人
3. 視力不足などのため表示内容が読めない人
4. 16歳未満の人
5. ハンドルを操縦する体力に自信のない人

〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

 危険　作業に適した服装

1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁
2. だぶつきのない服装
3. ヘルメットなどの防護具の着用

〈守らないと〉
機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険がありあます。

 危険　他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。

〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

 危険　機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。
機械を改造しないでください。

〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

 注意　点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。
定期の点検・整備は必ず受けてください。

〈守らないと〉
自己・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。

 警告　ロータリー作業ではダッシュに注意

土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュする)ことがあります。

〈守らないと〉
傷害事故を引き起こす恐れがあります。

 危険　ハウス内での作業は換気を充分にする

排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

〈守らないと〉
排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。

安全に作業するために

警告　子供を近付けない
子供には十分に注意し機械に近づかせず絶対に触れさせないでください。

〈守らないと〉
傷害事故を引き起こす恐れがあります。

警告　作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む
作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで
理解してください。

〈守らないと〉
傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

警告　作業機の脱着は平坦な場所で行う
作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。
夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉
傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

警告　溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する
ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅
長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉
転倒やスリップによる事故を引き起こす恐れがあります。

注意　点検・整備は平坦な場所で行ってください
点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所で
タイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉
機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。

警告　点検・整備中はエンジン停止
点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させ、エンジンや
マフラーが充分に冷えた状態で行なってください。

〈守らないと〉
ヤケドをする恐れや機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　カバー類は必ず取り付ける
点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作
業してください。

〈守らないと〉
機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　下にもぐったり、足を入れない
ロータリーの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだり
しないでください。

〈守らないと〉
ロータリーが下がったとき傷害事故を負う恐れがあります。

安全に作業するために

 危険　燃料補給・注油時は火気厳禁

燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させてください。また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。

 警告　燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。

 危険　排気ガスには充分に注意する

閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は充分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。

 注意　マフラーの高温に注意

運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。

触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。

 警告　マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く

マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラクズ、燃料が付着していないか作業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こす恐れがあります。

 警告　坂道、アユミ板の上での変速禁止

適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。

 注意　エンジン始動時は周囲の安全を確認する

エンジンを始動する際は主クラッチが「**切**」、主変速が「**中立**」になっていることを確認してください。

リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。

また、周囲に人を近付けないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こす恐れがあります。

安全に作業するために

注意　発進、作業時は以下のことに注意してください

車速の最低速で主クラッチの「**入**」はゆっくり行い、「**切**」は素早く操作できるよう習熟した上で使用してください。

小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回は行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

警告　移動する際はロータリーを停止させる

移動するときはロータリークラッチレバーを「**切**」にしてください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　運搬には天井のない車を使用する

運搬には荷台に天井のない車を使用してください。荷台の上ではエンジンを切り、手で引き出ししてください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負う恐れがあります。

警告

積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に充分に耐え、滑り止めのついたものを使用し確実に固定してください。

荷台の高さが「**1**」に対しアユミ板の長さが「**4以上**」になるものを使用してください。

積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認し、最低速で上りは「**前進**」下りは「**後進**」で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作を行わないでください。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こす恐れがあります。

注意　格納するとき

機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから掛けてください。

火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないでください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。

注意　夜間作業の禁止

本機には夜間作業灯を装備しておりませんので夜間作業を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

廃棄物の処理

廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

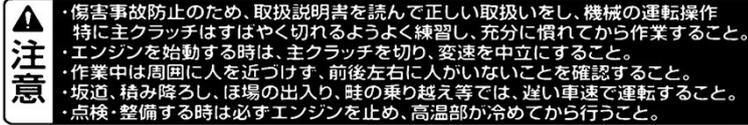
〈守らないと〉

みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。

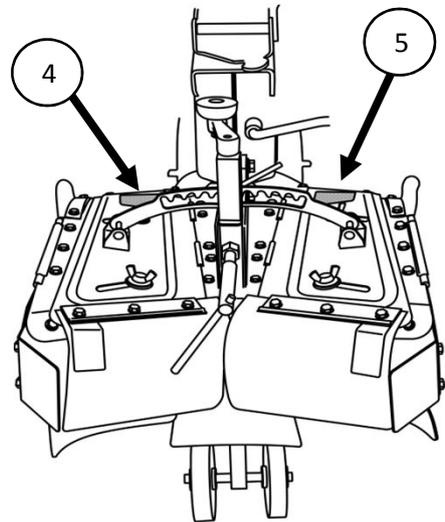
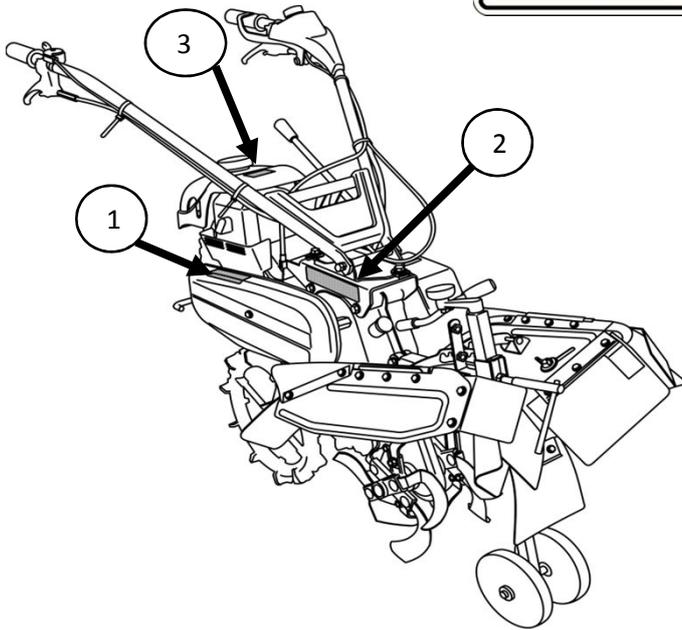
安全に作業するために

警告ラベルと貼り付け位置(ラベルの絵は原寸ではありません)

(1)品番　286350000805000

(2)品番　220121070803000

(3)品番　220121070806000

(4)品番　008171870552000

(5)品番　011452372551000

表示ラベルの手入れ

●ラベルは、いつでもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。

●高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

●破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。

●新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

●ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

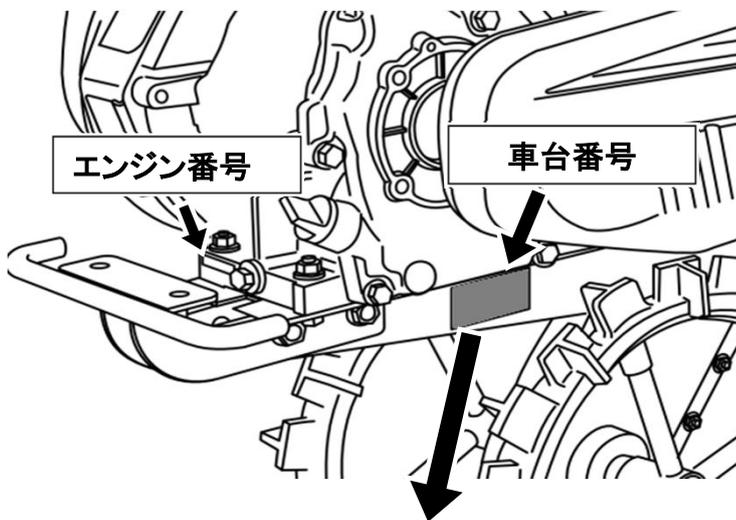
サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してあります
ので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービス
についてのご用命は、お買上げの販売店又
は直接当社にお気軽にご相談ください。

その際　（1）型式名
　　　　（2）車台番号（製造番号）
　　　　（3）エンジン番号
　　　　（4）故障内容（できるだけ詳しく）
　　　　・どのような作業をしていましたか
　　　　・どのくらい使用しましたか
　　　　（アール、又は時間）

農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型式名		K550 N
区分		
搭載機関	型式名	GB130LN
	連続定格出力	2.3KW(3.1PS)/1800rpm
製造番号		
製造元：関東農機株式会社		

⚠警告

機械の改造はしないでください。改造する
と機能に影響を及ぼすばかりか、人身事
故につながる恐れもあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた
正しい使用目的と異なる使用を行った場
合は、メーカー保証の対象外になります
のでご注意ください。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な
場合は、下記の型式名及び番号をご使用
ください。

販売型式名	K550　N
農機型式名	K550　N
安全鑑定番号	37024

⚠警告

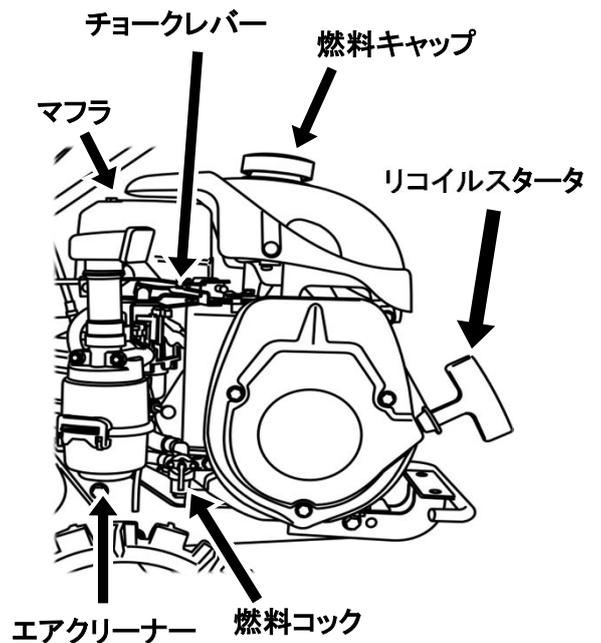
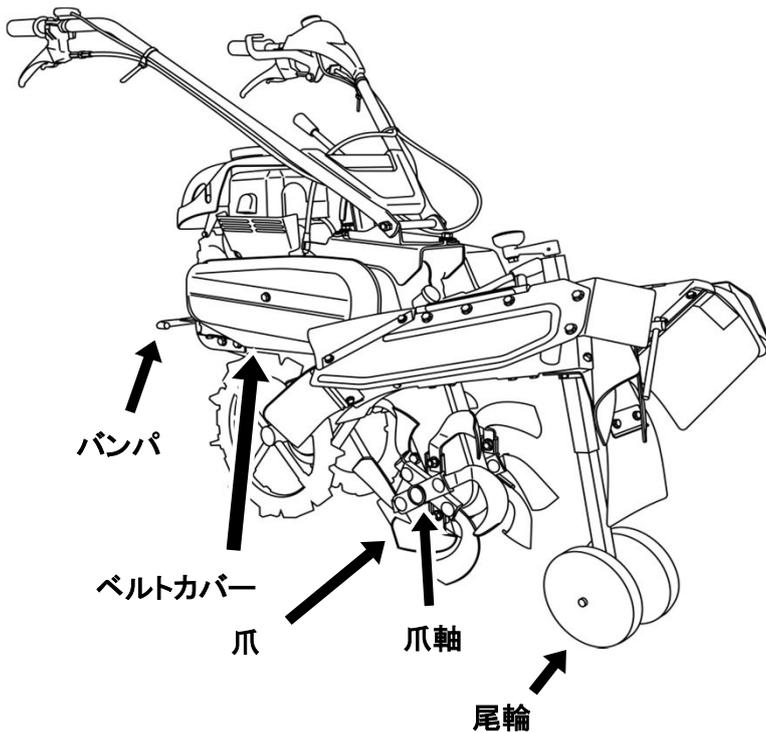
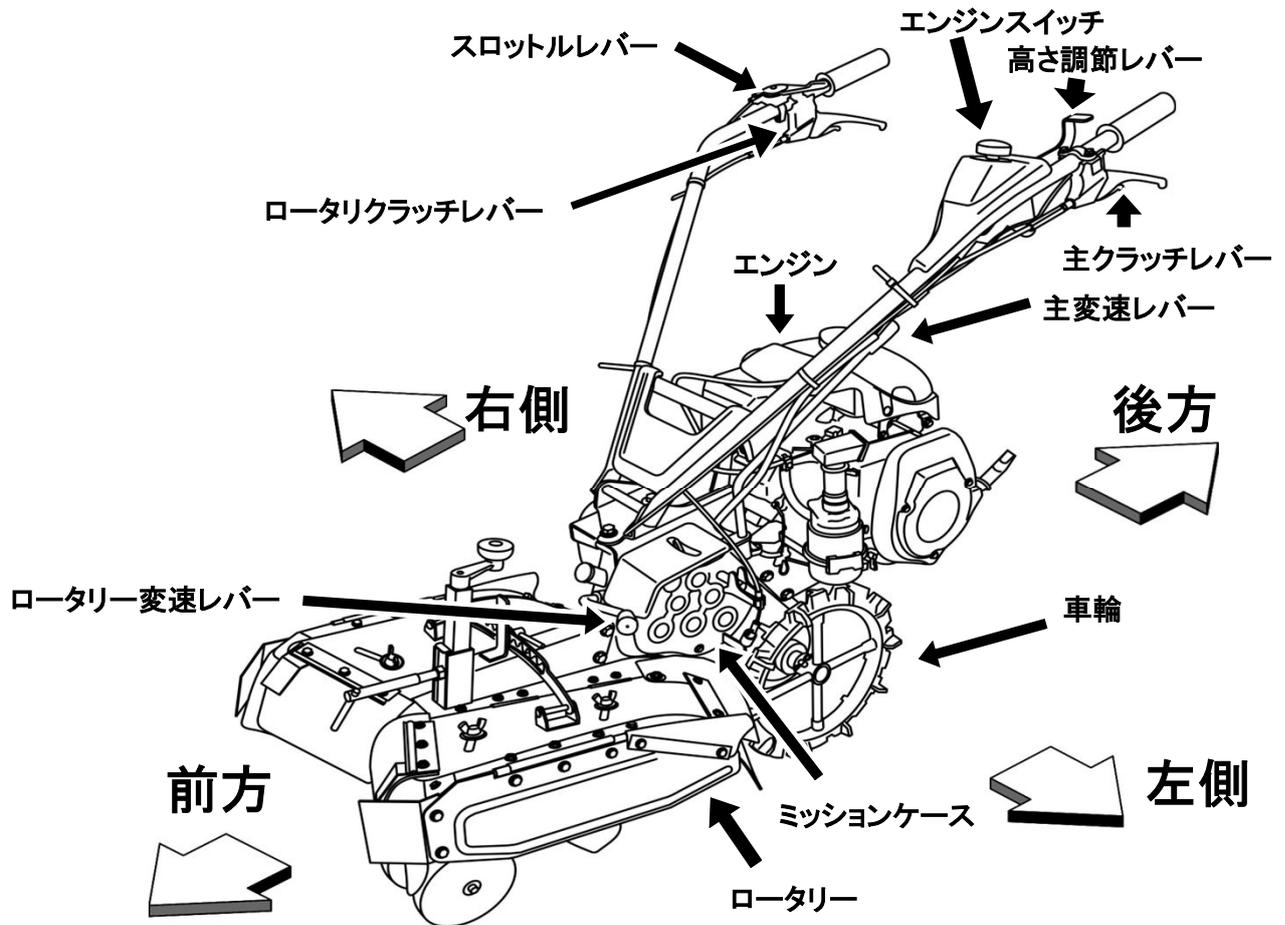
トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりませ
ん。
一般公道を走行すると、道路運送車両法
に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラ
ック）に積んで運搬してください。

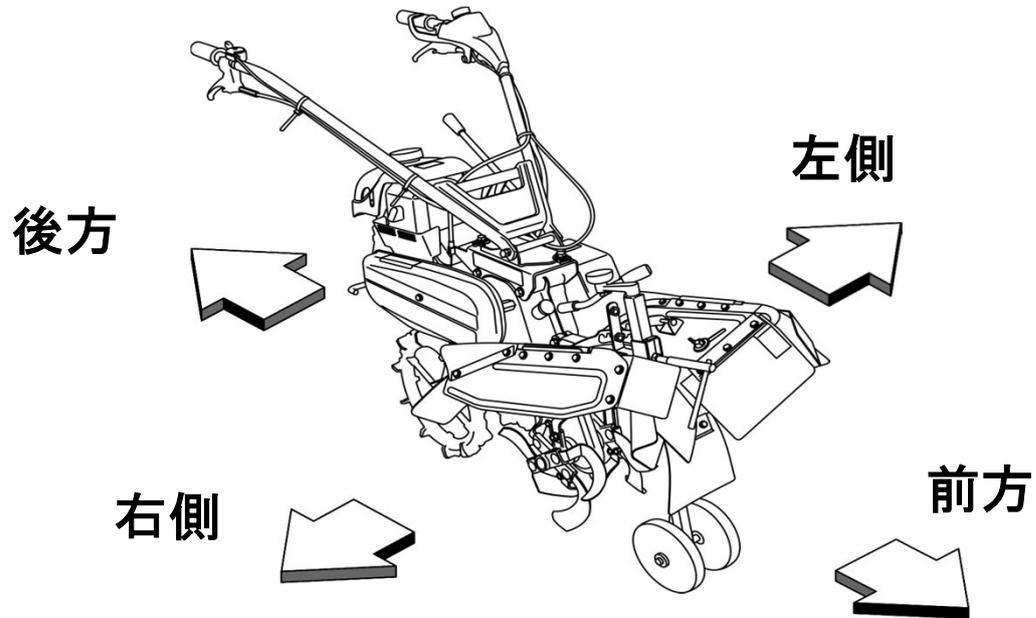
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）
は製造打ち切後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品に
つきましては、納期等についてご相談させ
ていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給
年限で終了いたしますが、供給年限経過後
であっても部品供給のご要請があった場合
には、納期及び価格についでご相談させて
いただきます。

各部の名称と装置の取扱い

■機体方向説明と装置の名称

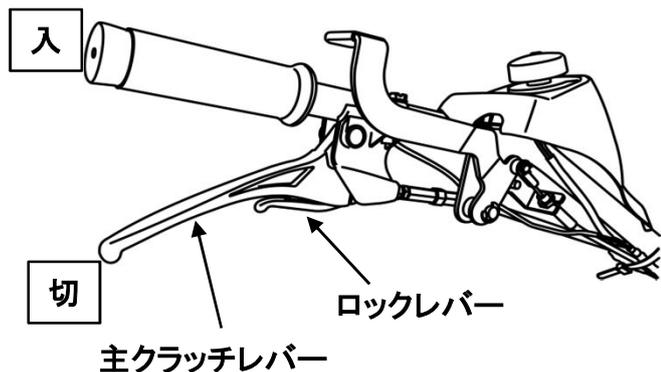
スロットルレバー
エンジンスイッチ
高さ調節レバー
ロータリクラッチレバー
主クラッチレバー
エンジン
主変速レバー
右側
後方
ロータリー変速レバー
車輪
前方
ミッションケース
左側
ロータリー

各部の名称と装置の取扱い

■機体方向説明と装置の名称

各部の名称と装置の取扱い

各部の名称とはたらき

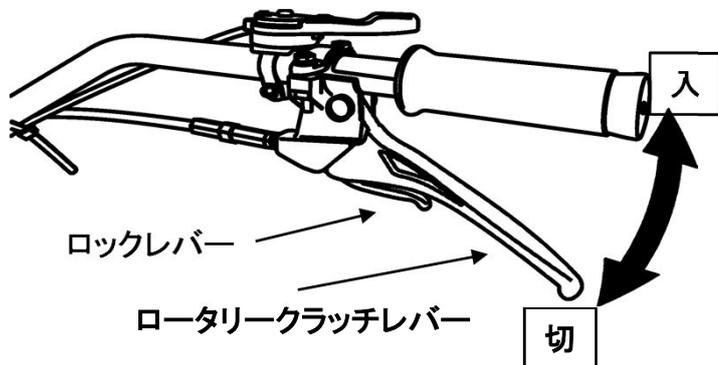
■主クラッチレバー

 注 意

※ 傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作して下さい。
※ 狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確め、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。

エンジンからの動力を断続します。
1. レバーを握るとクラッチが[入]ります。いったんクラッチが[入]るとロックレバーが作動して、指を離しても戻りません。
2. ロックレバーを握り指を離すとレバーが戻り、クラッチが[切]れます。

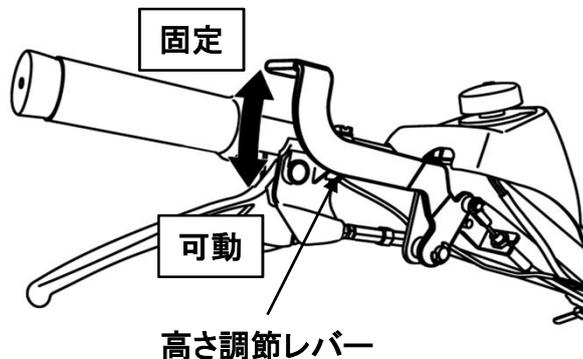
■ロータリークラッチレバー

 注 意

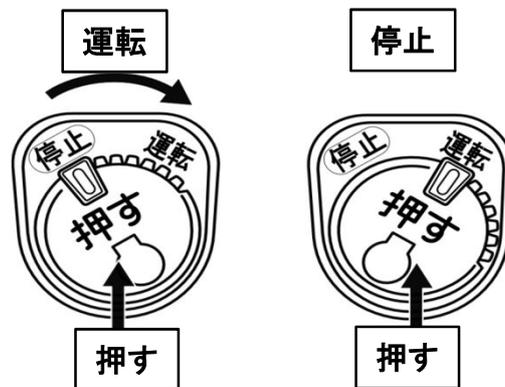
※ クラッチ操作は必ず主クラッチレバーを[切]にしてから行なってください。
※ 移動時はロータリークラッチを[切]にしてください。

ロータリーへの動力を断続します。
1. レバーを握るとクラッチが[入]ります。いったんクラッチが[入]るとロックレバーが作動して、指を離しても戻りません。
2. ロックレバーを握り指を離すとレバーが戻り、クラッチが[切]れます。

■高さ調節レバー（ハンドル上下）

 注 意

※ 平坦な場所に機械を安定させて、エンジンを必ず停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。

1. 高さ調節レバーを下方に押し下げるとハンドルの高さ5段階調節できます。
2. 高さ調節レバーを離すと固定されます。このときピンプレート穴に確実に入っているか確認してください。

■エンジンスイッチ

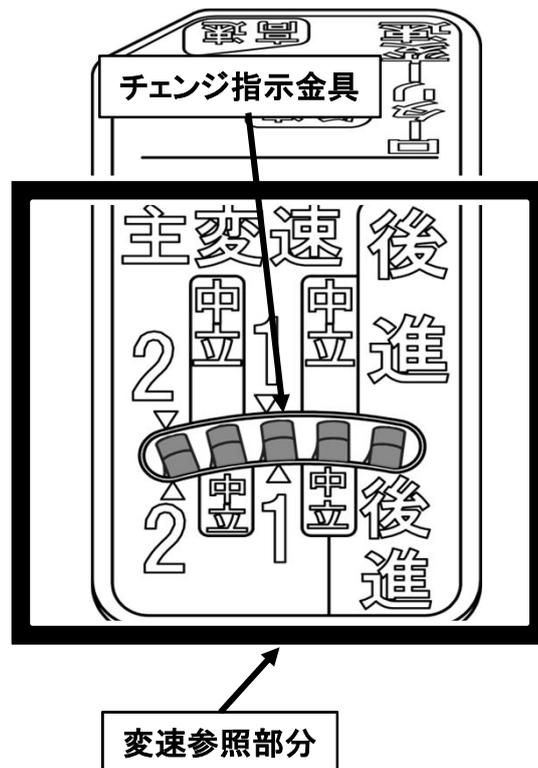
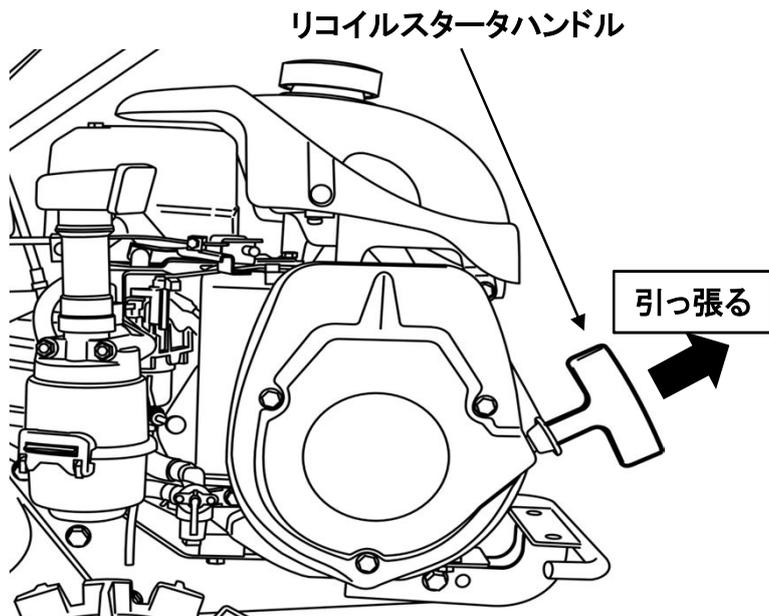
エンジンの始動・停止に用います。
1. スイッチを押しながら[運転]位置に回すと始動が可能な状態になります。
2. スイッチを押すと左に回って[停止]位置に戻り、エンジンが停止します。

補 足
※ 非常時にはエンジンスイッチを押してください。エンジンが停止します。

■リコイルスタータ

 注 意

※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

エンジンを始動します。
主クラッチレバーを[切]にし、エンジンスイッチを運転に合わせリコイルを引っ張ると始動します

各部の名称と装置の取扱い

■主変速レバー（走行変速）

 注 意

※　エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]ににしてください。
※　変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。
※　走行中は変速しないでください。

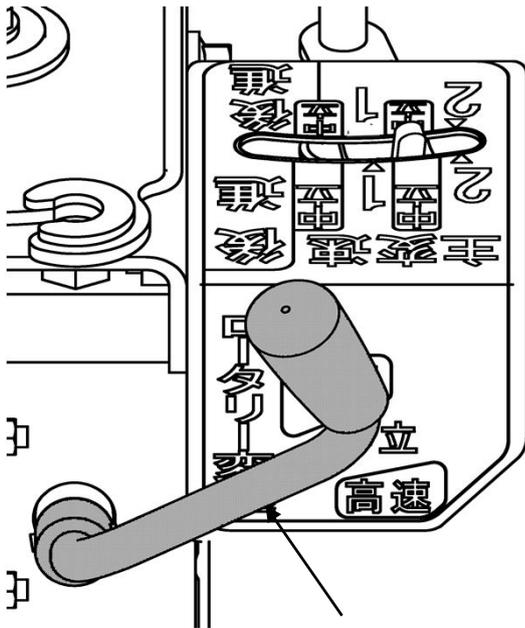
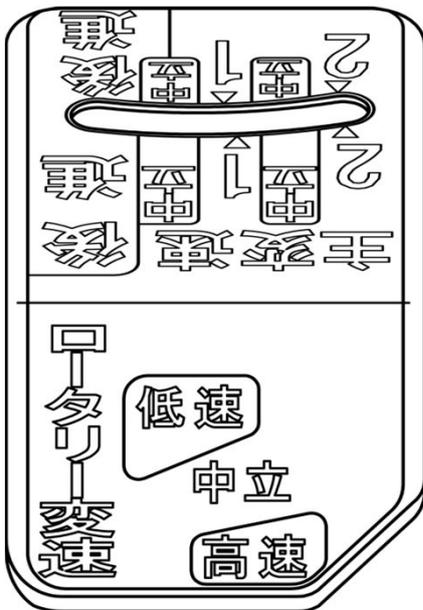
1. 走行変速は前進2段、後進1段の計3段あります。

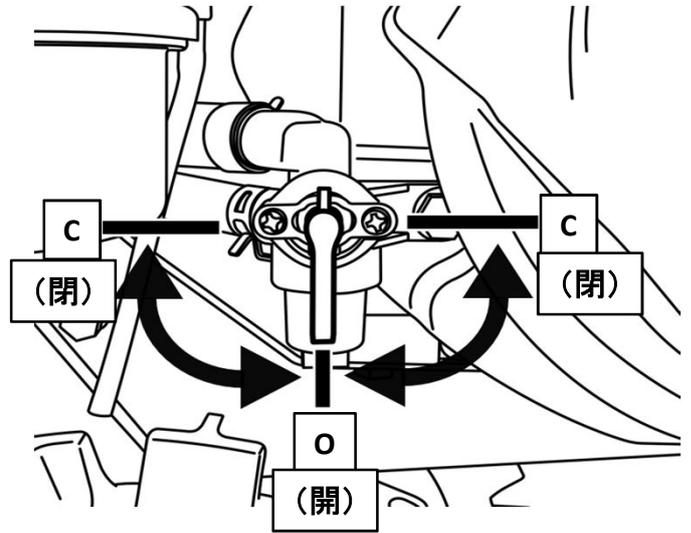
各部の名称と装置の取扱い

■ロータリー変速レバー

注 意

※　エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]ににしてください。
※　変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。
※　走行中は変速しないでください。

※変速は案内板の表示位置に合わせシフトします。
1. ロータリーは高速1段、低速1段の計2段です。

ロータリー変速レバー

■燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへの燃料の[供給]・[停止]をします。エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めます。
1. [c](閉)・・・燃料停止
2. [o](開)・・・燃料供給

重 要

※　コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

■燃料キャップ

警 告

※　給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
※　火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
※　燃料がこぼれたときはきれいにふきとってください。
※　給油後、燃料キャップはガソリンがもれなようにしっかり締めてください。
※　上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

自動車用レギュラーガソリンを使用します。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	1.2L

重 要

※　燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

■マフラ

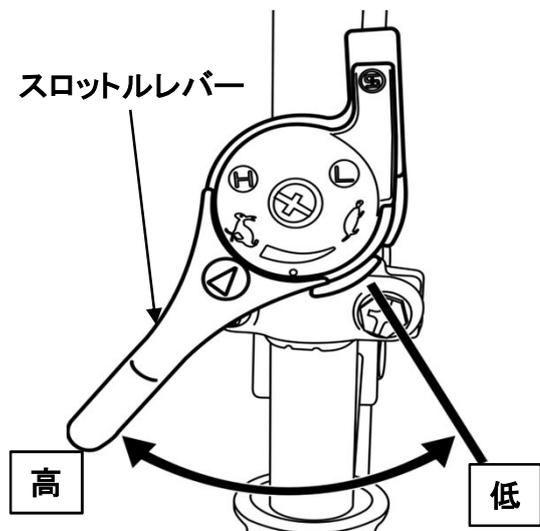
注 意

※　マフラに手をふれないでください。
　　ヤケドをするおそれがあります。

各部の名称と装置の取扱い

■スロットルレバー

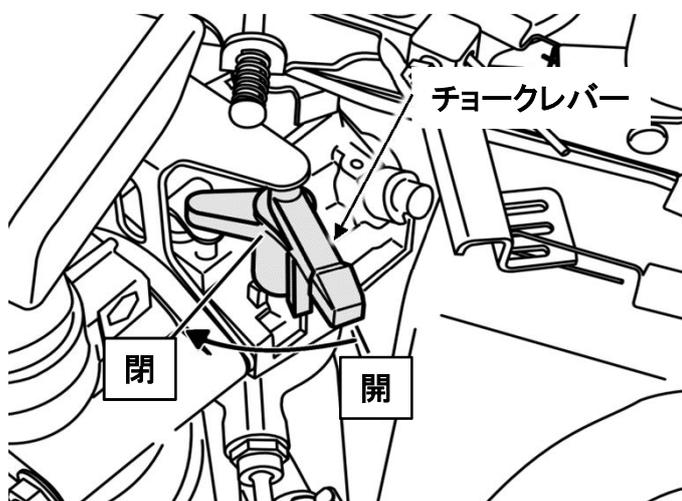
エンジン回転数を操作します。

1. 低（亀マーク）・・・・・・エンジン回転数低速
2. 高（うさぎマーク）・・・エンジン回転数高速

■チョークレバー

エンジンがかかりにくい時に使用します。

1. **始動時・・・[閉]位置**にレバーを切り替えます。
2. **始動後・・・[開]位置**にレバーを切り替えます。

作業前の点検

注 意

※　平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
※　点検はエンジンを停させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行なってください。

調子よく作業するために

（詳細は17ページの[管理機の簡単な手入れと処置]の項を参照）

警 告

※　給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
※　火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
※　燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
※　燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
※　給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
※　上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

重 要

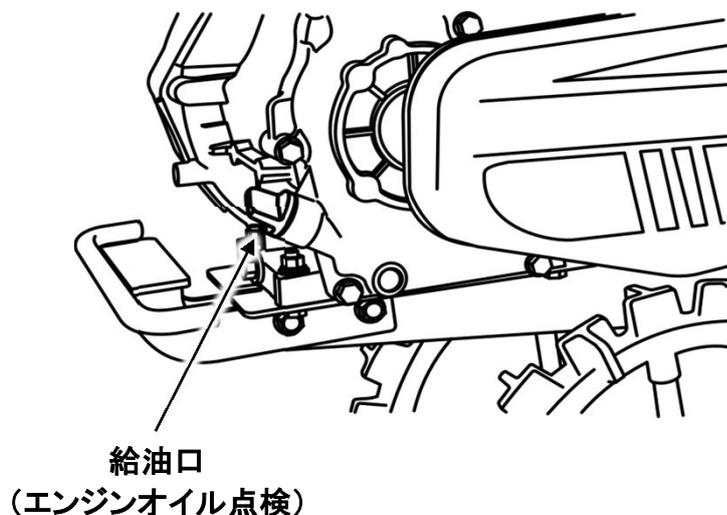
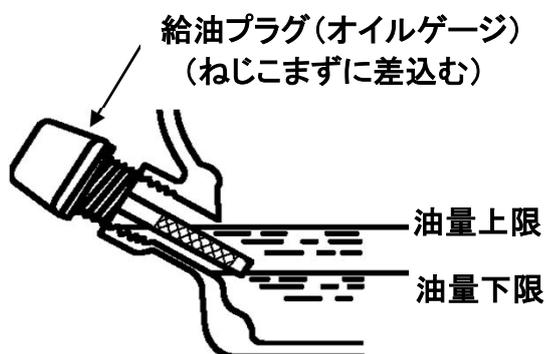
※　各給油箇所には工場から出荷のときオイルが入れてありません。下表に従い給油してください。

給油箇所	種類	容量
エンジン（GB130）	エンジンオイル	0.5L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	1.2L
ミッションケース	ミッションオイル　#80又は#90	1.2L
耕うん軸、車軸、レバー支点	グリス	別途指示
クラッチワイヤー、ケーブル（タカサ）等	エンジンオイル	別途指示

※エンジンオイル・・・・・・・・・・10W-30
※ミッションオイル・・・・・・・・・#80又は#90

◆エンジンオイル

- エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
- 不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。（ガソリンエンジン用）

※　オイルゲージはねじ込まずに使用します。
※　出荷時にオイルは抜取っておりますが、構造上抜ききれないオイルが内部に残存しています。
　　0.5L給油しようとするとあふれる場合がありますので、オイルゲージの規定容量を目安に給油してください。

作業前の点検

◆ミッションオイル
- ケースのロータリ側の側面に設けてある、給油口よりミッションオイルを規定量給油してください。
- 機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
- 不足している場合にはミッションオイルを入れます。

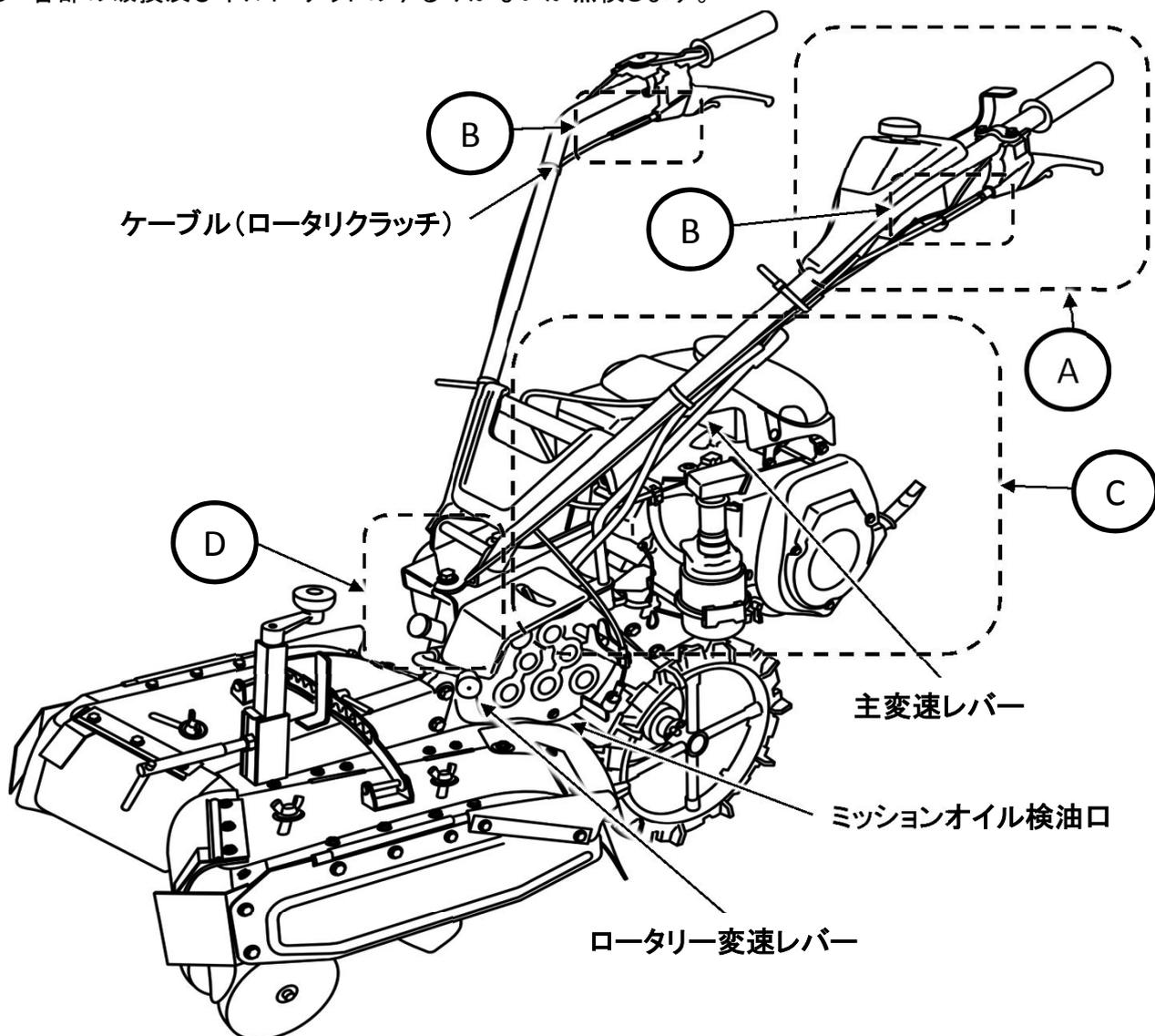
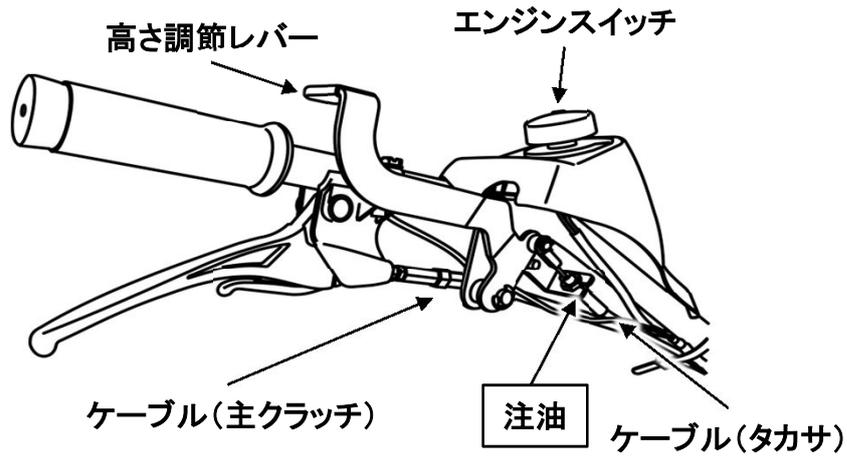
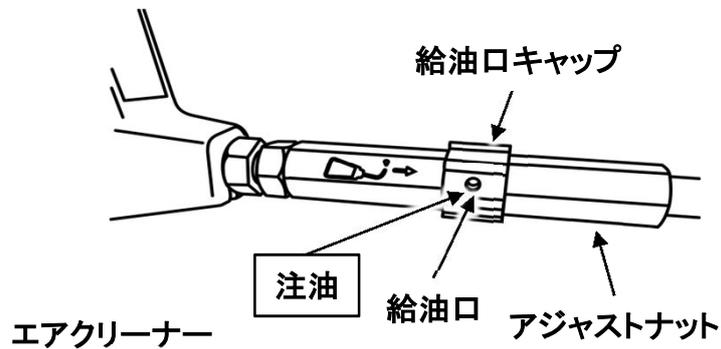
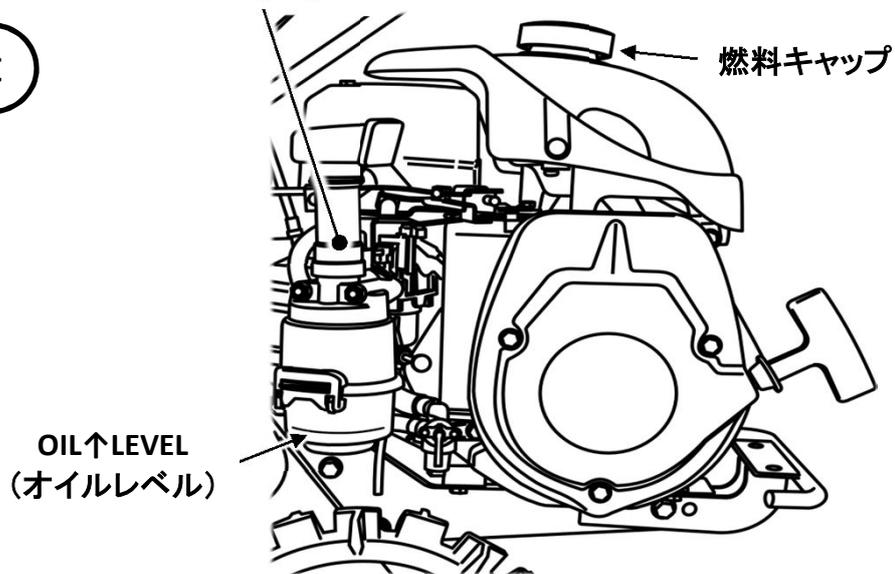
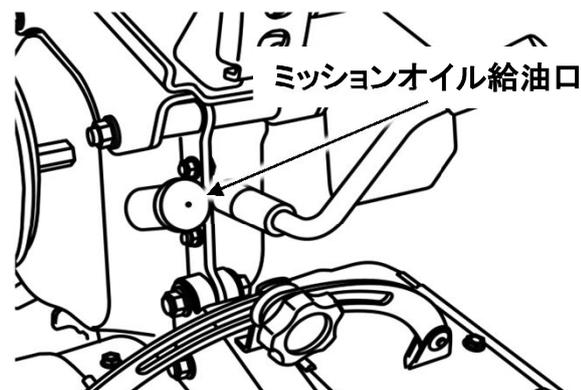
◆エアクリーナー
- エアクリーナーにオイルを入れます。（エンジンオイルSC級以上）
- エンジンオイルをOIL↑LEVELまで入れてください。
- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

◆燃料
- ロータリ爪接地状態で燃料を入れてください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量・・・・約1.2L（赤色ゲージ以下にします）

◆ケーブル（主クラッチ、ロータリクラッチ）、ケーブル（タカサ）
- 注油口よりエンジンオイルを注油します。

◆その他
- エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の破損及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

作業前の点検

A
高さ調節レバー
エンジンスイッチ
ケーブル（主クラッチ）
注油
ケーブル（タカサ）
B
給油口キャップ
注油
給油口
アジャストナット
C
エアクリーナー
燃料キャップ
OIL↑LEVEL
（オイルレベル）
D
ミッションオイル給油口

作業前の点検

安全に作業するために

◆主クラッチレバー・ロータリークラッチレバー

- クラッチの[入]・[切]が確実に行えるか点検します。
- 不良の場合は調整・注油します。

◆主変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実に行えるか点検します。
- 不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

◆ロータリー変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実に行えるか点検します。
- 不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

◆電気配線

- 被覆が溶けたり破れたりしていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

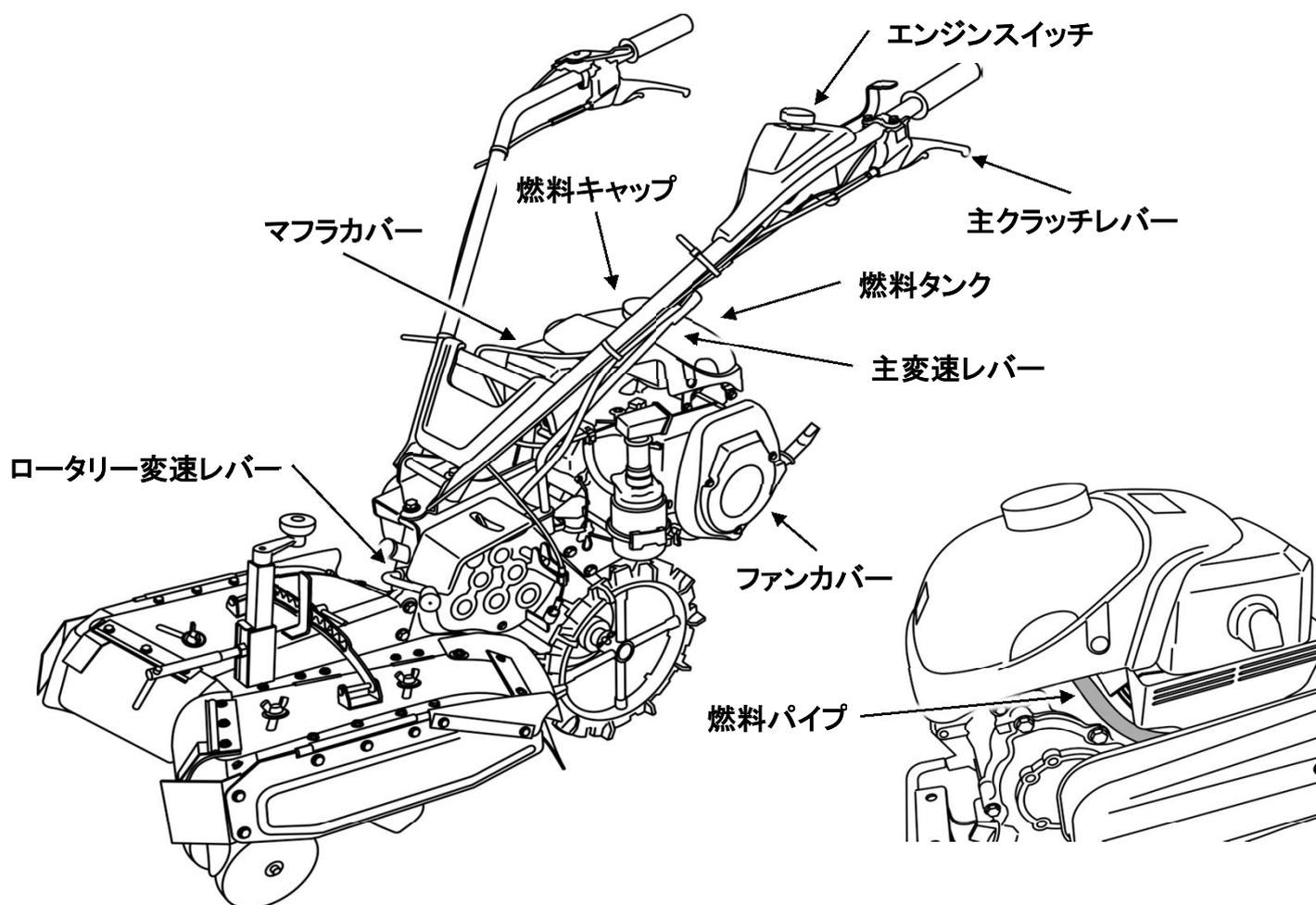
◆エンジン周辺部

- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ガソリンもれ

- タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。もれがある場合は、販売店に修理点検を依頼して使用を控えて下さい。

◆エンジンスイッチ

- エンジンの始動、停止が確実に行えるか確認します。エンジンが停止しない場合無理に停止しようとせずご購入になった販売店までご連絡ください。

運転のしかた

新車時の扱いかた

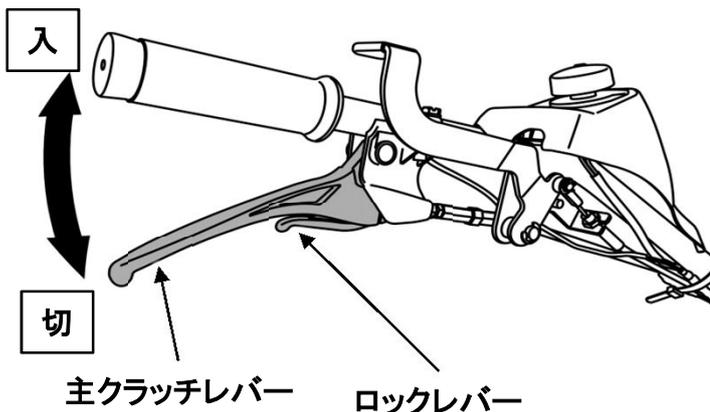
■ならし運転（最初の10時間まで）
この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

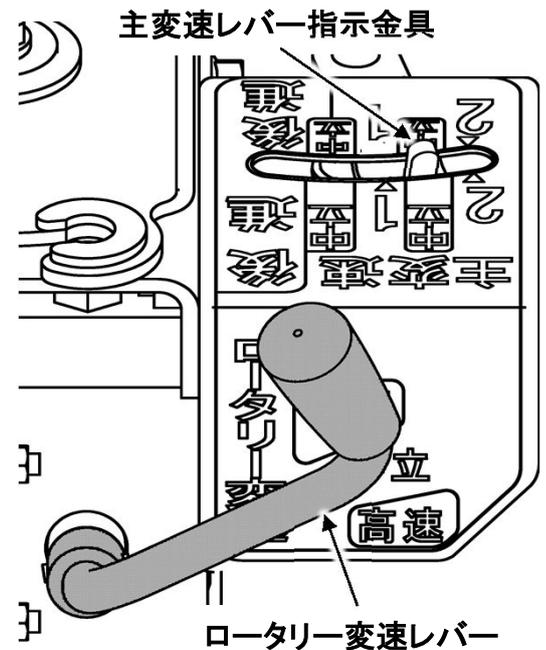
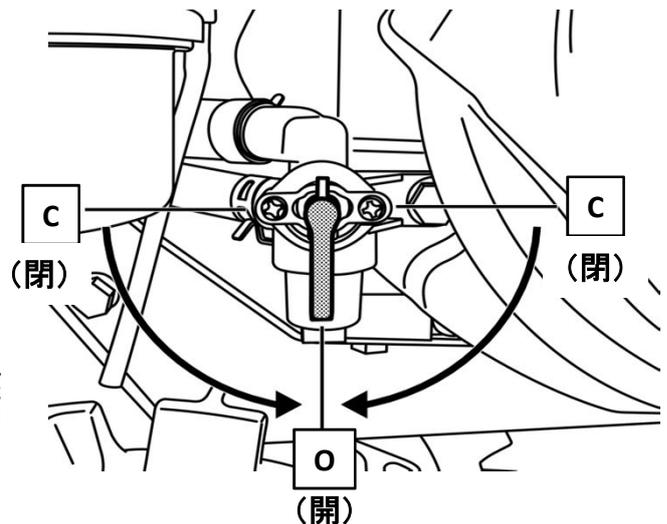
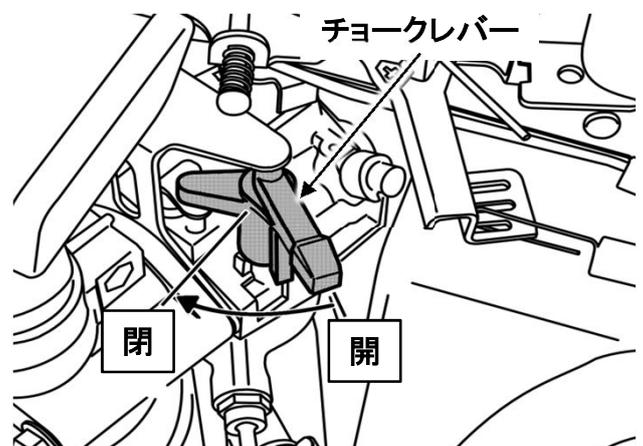
エンジンの始動と停止のしかた

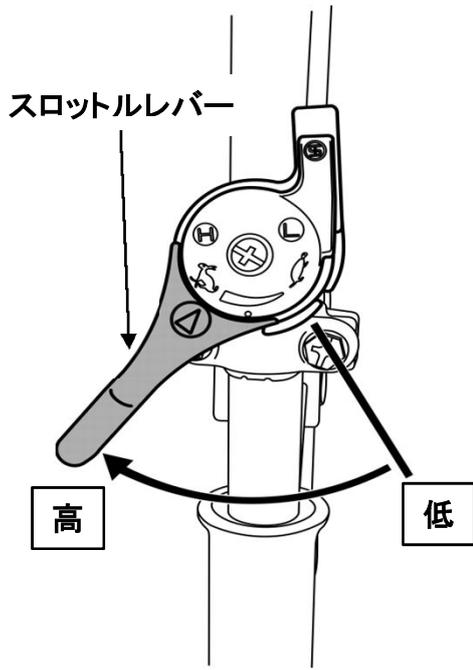
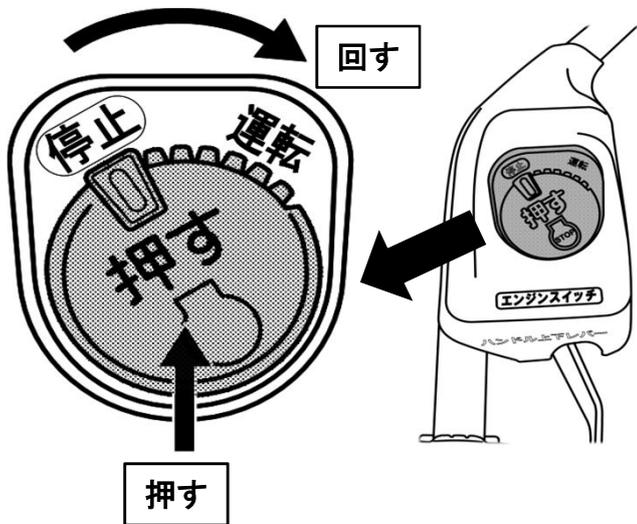
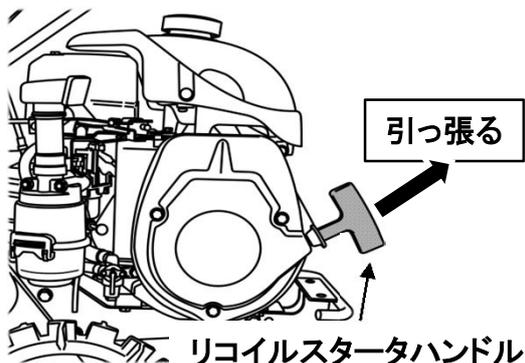
■始動のしかた

 注 意

※ マフラの排気口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
※ エンジンの運転中は、危険ですからマフラやそのほかの操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
※ 夜間作業はしないでください。
※ エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず[切]にしてください。

1．主クラッチレバーを[**切**]にします。
（ロックレバーを握り、クラッチを[**切**]にします）

補 足
※ 主クラッチレバーが[入]では始動ケンセイ装置が作動してエンジンが始動しません。

2．主変速レバー・ロータリー変速レバーを[**中立**]にします。

3．燃料コックを[**O**]（開）にします。

4．チョークレバーを[閉]位置に切り替えます。
（但し、外気温15℃以下の場合）

運転のしかた

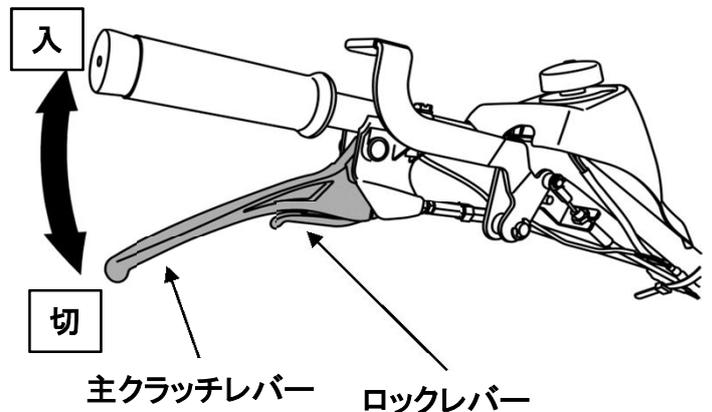
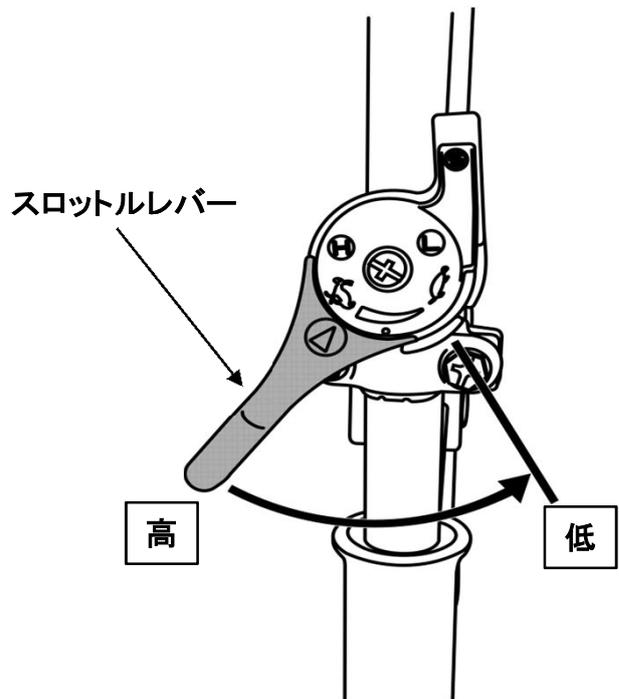
5. スロットルレバーを[高]にします。

6. エンジンスイッチを押しながら[運転]位置まで回します。

7. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。

8. チョークレバーを[閉]の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[開]の位置に戻します。
9. 2～3分暖機運転をしてから、作業を始めて下さい。

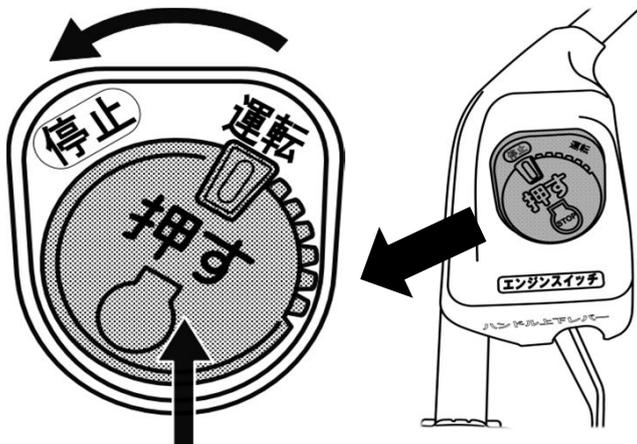
※ 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

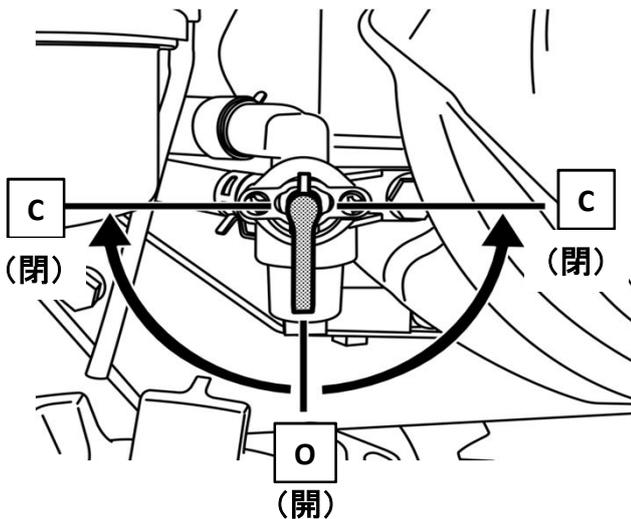
■停止のしかた

警 告

※ **停止後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。**

1. 主クラッチレバーを[切]にします。
（ロックレバーを握り、クラッチを[切]にします）

2. スロットルレバーを[低]にします。

運転のしかた

3. 主変速レバー、ロータリ変速レバーを[**中立**]にします。
4. エンジンスイッチを押すと左に回って[**停止**]位置に戻り、エンジンが停止します。

5. 燃料コックを[**C**](**閉**)にします。

重 要

※ コックを開いたままの状態で保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。
また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

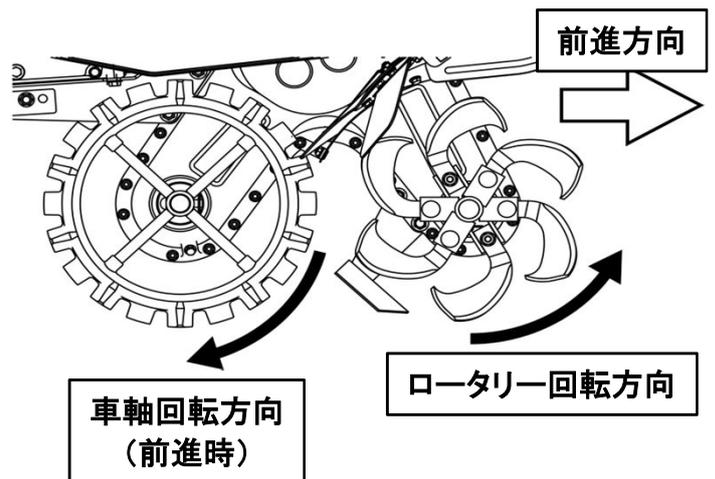
発進のしかた

警 告

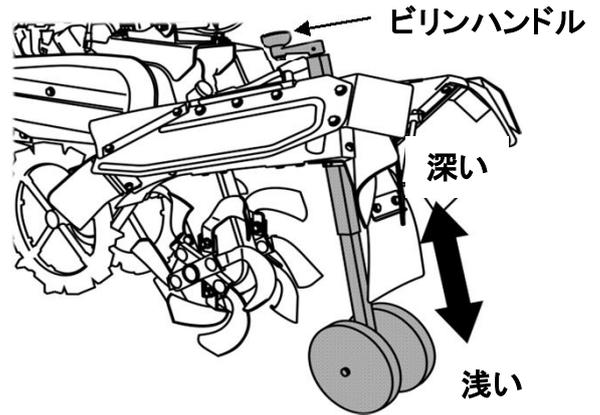
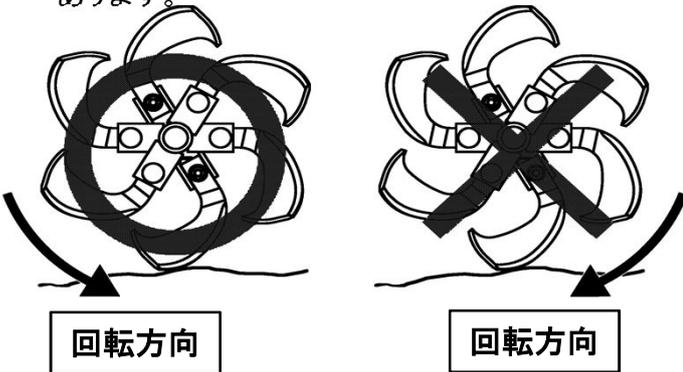
※ **運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故の恐れがあります。**
※ **傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首がはさまれる恐れがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。**
※ **狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上部などまわりの安全を確かめてゆっくりと主クラッチ操作をしてください。**

1. 主クラッチレバーが[**切**]の位置にあることを確認した後、変速レバーを必要な変速位置にします。
2. 主クラッチレバーを[**入**]にすると発進します。
3. スロットルレバーを操作して速度を調節します。

補 足

本製品の前進の向き及び爪軸の回転は下図のようになります。

運転のしかた

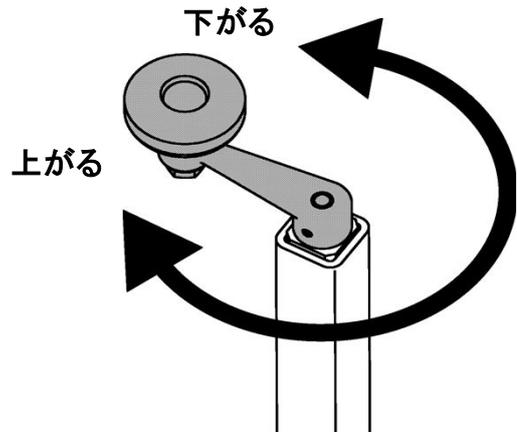
重　要

※　爪軸の向きは下記の図のように取り付けて下さい。
誤った方向で作業を行うと機体を破損する恐れがあります。

■耕深の設定

警　告

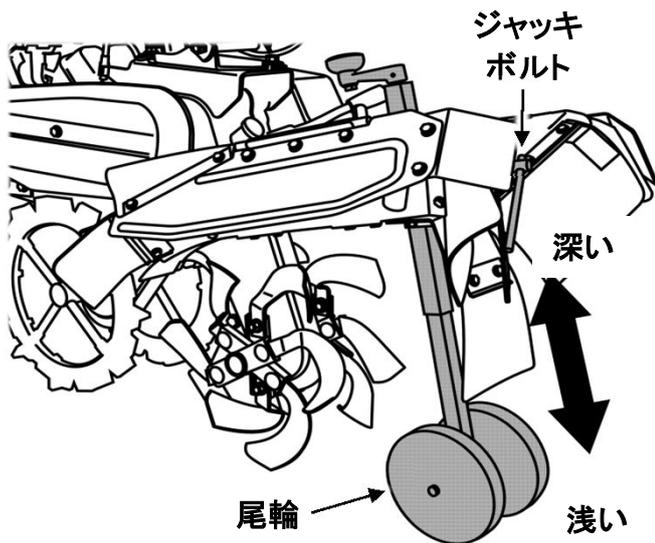
※　調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故の恐れがあります。
※　耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながる恐れがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。

尾輪の高さにより耕深を調節します。

尾輪の位置	耕深
上げる	深くなる
下げる	浅くなる

◆ジャッキボルトによる調整

1. ジャッキボルトをゆるめ、尾輪の位置を調節出来るようにします。
2. 耕深を浅くする場合は尾輪を下げ、深くしたい場合は尾輪を上げます。

◆ビリンハンドルによる調整

1. ビリンハンドルを回転させ尾輪の位置を調節します。
2. ビリンハンドルを時計回りに回すと尾輪が**上がり**ます。
ビリンハンドルを反時計回りに回すと尾輪が**下がり**ます。

■ハンドル高さの調節

注　意

※　平坦な場所に安定させて、主変速レバー、ロータリー変速レバーを中立にして、主クラッチレバーを[切]にして行なって下さい。傷害事故の恐れがあります。

1. 高さ調節レバーを押しこむとハンドルが5段階に調節できます。
2. 高さ調節レバーを離すと固定されます。このときピンがプレート穴に確実に入っているか確認してください。

作業のしかた

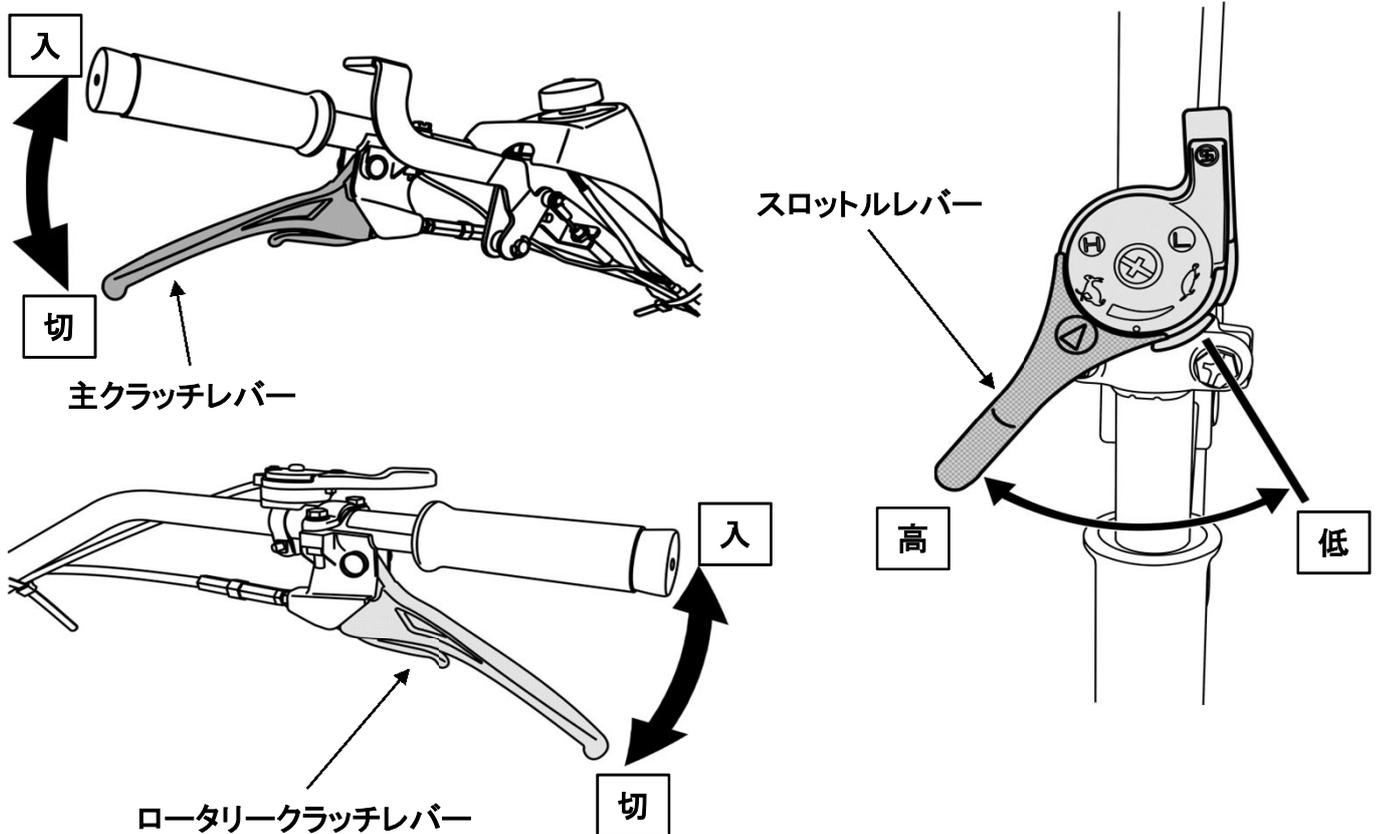
上手な作業のしかた

下記操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

■耕うん作業手順（作業場所までの移動は運転のしかたを参照してください）

1．主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーが[**切**]になっていることを確認します。
2．主変速レバーを作業に合わせて目的の位置に確実に入れます。
3．ロータリー変速レバーも作業に合わせて高速または低速の位置に確実に入れます。
4．スロットルレバーを操作してエンジンの回転数を上げます。
5．ロータリークラッチレバーを[**入**]にします。
6．主クラッチレバーを徐々に握るとクラッチが入りロータリーが回転し、発進します。
7．スロットルレバーを操作し、速度やロータリー回転数を調節します。
8．変速する時やロータリーの[入][切]操作を行うときは必ず主クラッチレバーを[**切**]にしてから行なってください。

■旋回手順

1．主クラッチレバー、ロータリークラッチレバー**を**[**切**]にしてください。
2．スロットルレバーを[**低速**]にしてください。
3. ハンドルを下方に押し下げ、主クラッチレバーをゆっくり握り旋回します。

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

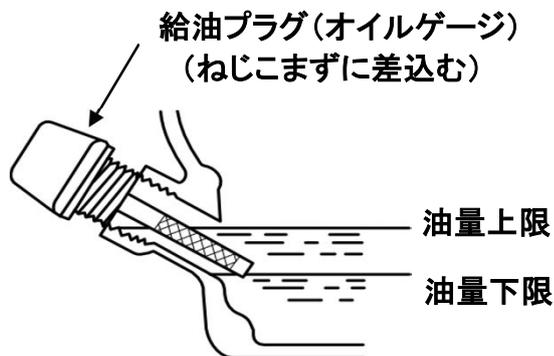
警 告

廃棄物をみだりにすてたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
※ 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
※ 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
※ 廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

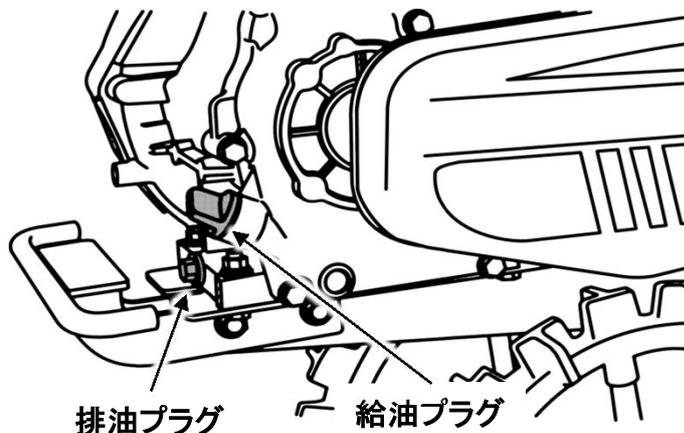
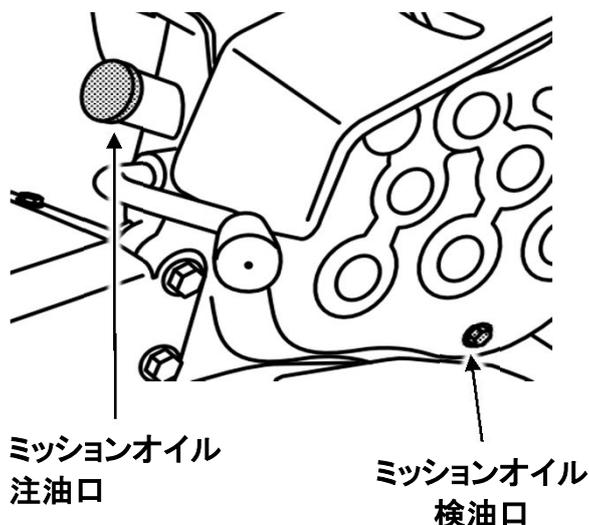
日常の手入れ

注 意

※ 給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止しエンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
※ 平坦な場所に機械を安定させて行なってください。

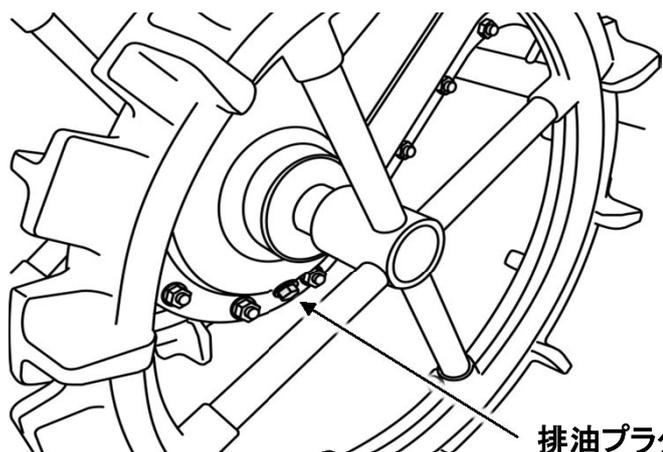
■エンジンオイルの交換
◆ 給油のしかた
エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。

◆ 排油のしかた
機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

重 要

※ 粗悪なオイルを使用するとエンジンの寿命を急激に縮めます。エンジンオイルを交換、補充する際には購入先でエンジンオイル 10W-30 とご指定の上お求めください。
（次頁の**オイルの点検と交換表**を参照）
※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

■ミッションオイルの交換
◆ 給油のしかた
機体を水平にし検油口まで給油してください。

◆ 排油のしかた
ミッションケース車軸側にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

補 足

※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

管理機の簡単な手入れと処置

重　要

※　粗悪なオイルを使用するとミッションの寿命を急激に縮めます。ミッションオイルを交換、補充する際には購入先でミッションオイル#80又は#90とご指定の上お求めください。
（次頁の**オイルの点検と交換表**を参照）

※　排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

※　オイル交換をする場合は、排油プラグを外して排油しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるために、できるだけ運転使用後、オイルが暖まっている状態の時排出してください。

オイルの点検と交換表

項目 （オイル量）	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以降	
エンジンオイル（0.5L）	エンジン水平	20時間使用後	50時間使用後	10W-30
ミッションオイル（1.2L）	機体水平	20時間使用後	年一回	#80又は#90

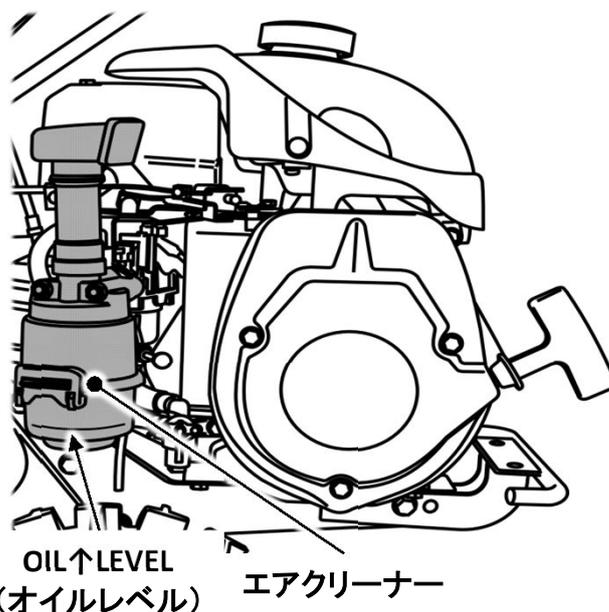
◆　**エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換**

1．エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取り付けてください。
2．オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。

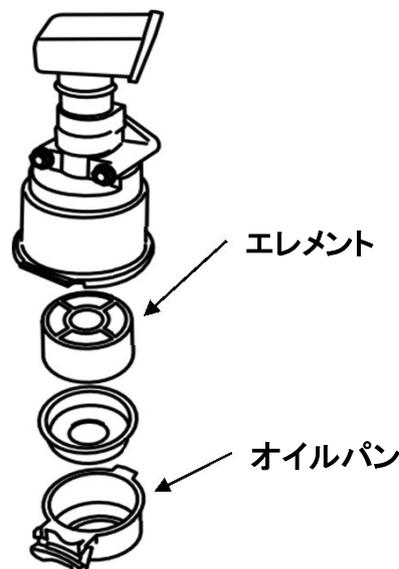
●　規定量・・・OIL↑LEVELと記載されているところ。

重　要

※　エアクリーナーエレメントを取外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。

※　汚れたまま使用しますと、エンジン出力低下や故障の原因になります。

エレメント （オイル）	清掃	通常	通常
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどいとき	

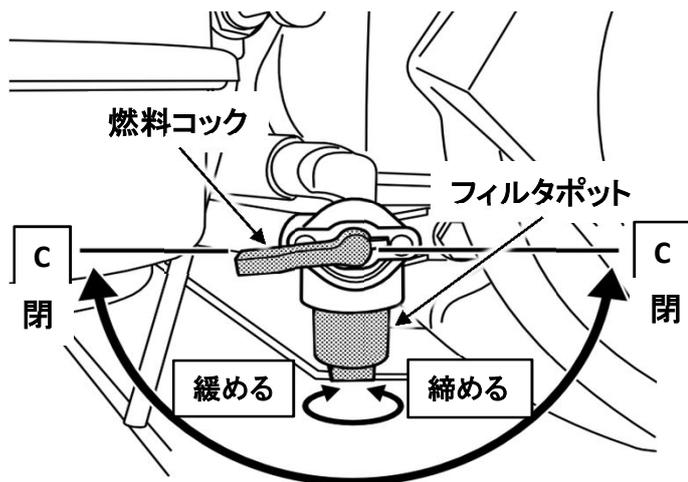
※　チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は
（1）ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸入口を向けてください。
（2）毎日点検してください。

※　規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。

管理機の簡単な手入れと処置

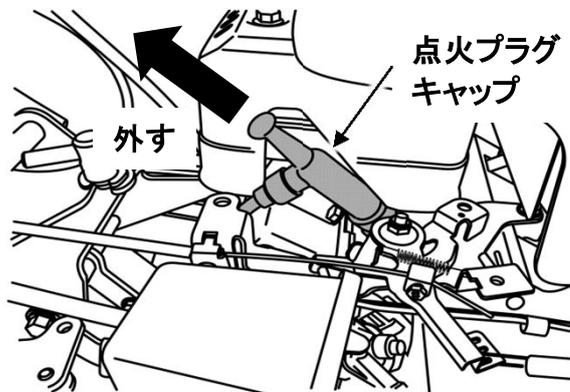
■燃料フィルタの清掃

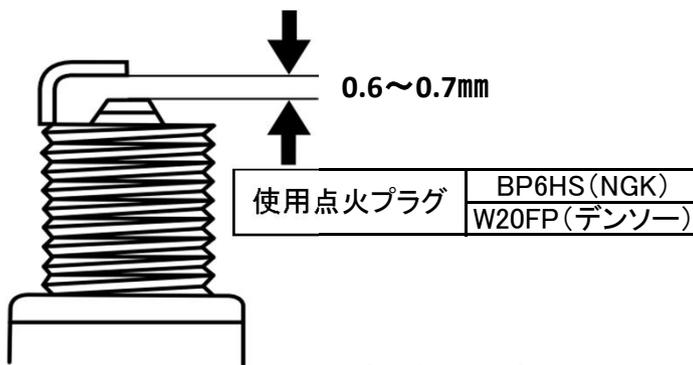
※　取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。
   取り除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを[C](閉)にし、フィルタポットを外しポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

■点火プラグの調節・清掃・交換

※　高温部が冷えてから行なってください。

1. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。

2. 付属のプラグボックスでプラグを外して、電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
3. 電極の隙間が0.6～0.7㎜になるように調節してください。
4. 点検清掃は6ヶ月に1回行なってください。

使用点火プラグ	BP6HS（NGK）
	W20FP（デンソー）

5. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重　要

※　プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で締め込んでから、プラグボックスで締付けてください。
※　調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
※　プラグを外したまま始動操作をしないでください。

管理機の簡単な手入れと処置

■ベルトテンションの調整

警告

※ ベルト調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
※ 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす恐れがあります。
※ エンジンを始動する前に、変速レバーを中立にしてください。
※ 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

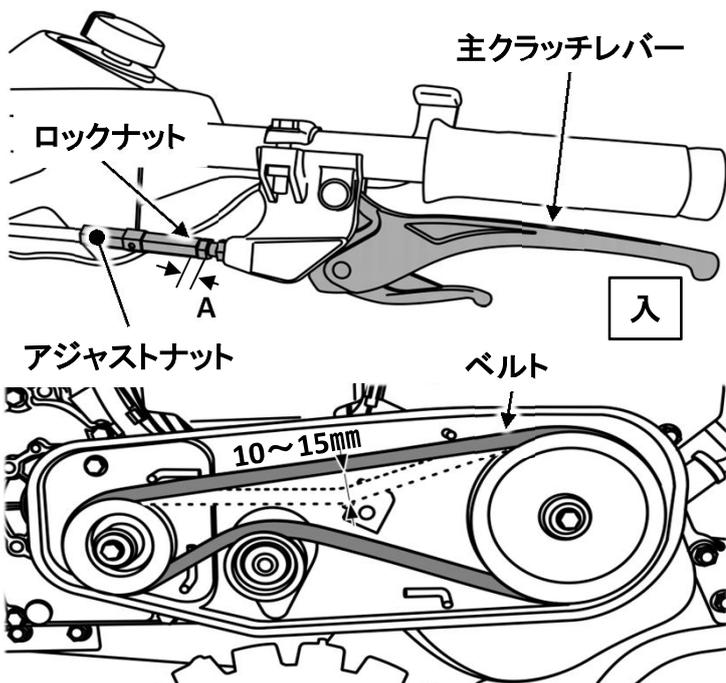
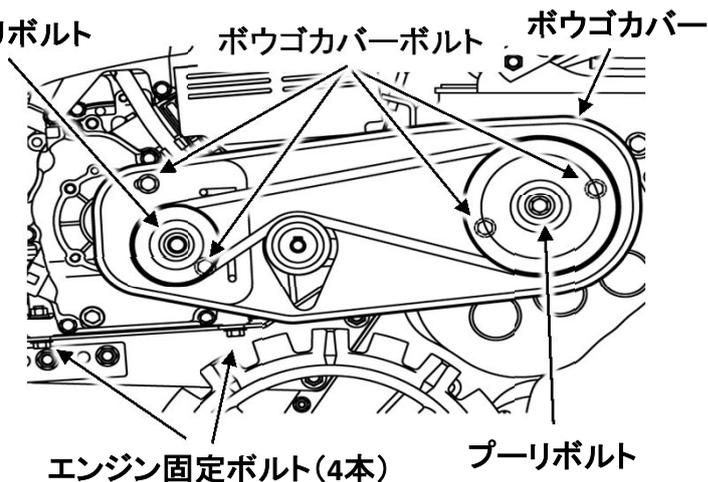
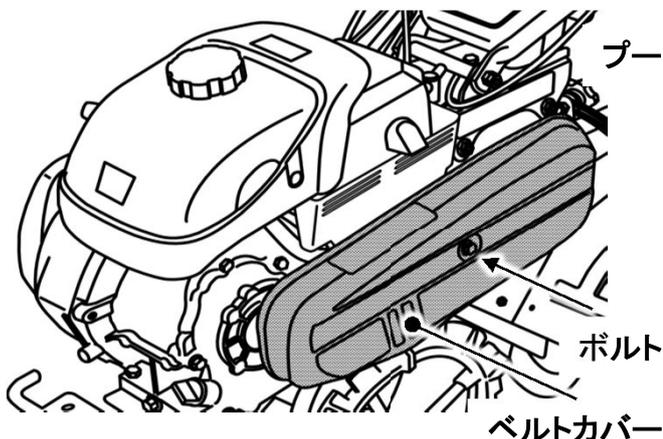
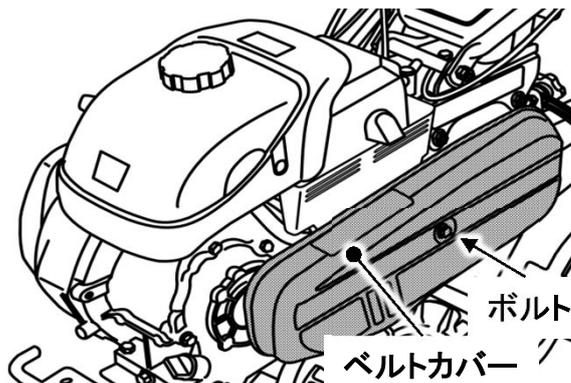
◆ 主クラッチケーブルによる調節

1. ベルトカバーのボルトを外し、ベルトカバーを取外します。
2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押さえ10～15㎜たわむ程度に、アジャストナットでテンションプーリーを調節します。調整後はロックナットでアジャストナットを固定します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後にケーブルを再調整してください。

ベルトがスリップするとき	アジャストナットのAを長くする
主クラッチレバーが重すぎるとき	アジャストナットのAを短くする

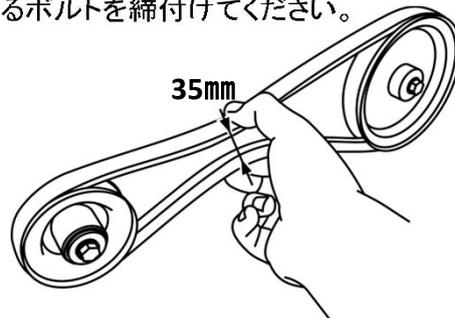
◆ エンジン前後によるベルトの調節

ベルトが伸びたり、又は新しいベルトに取替えたとき、主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は、エンジンを前後に移動して調節します。

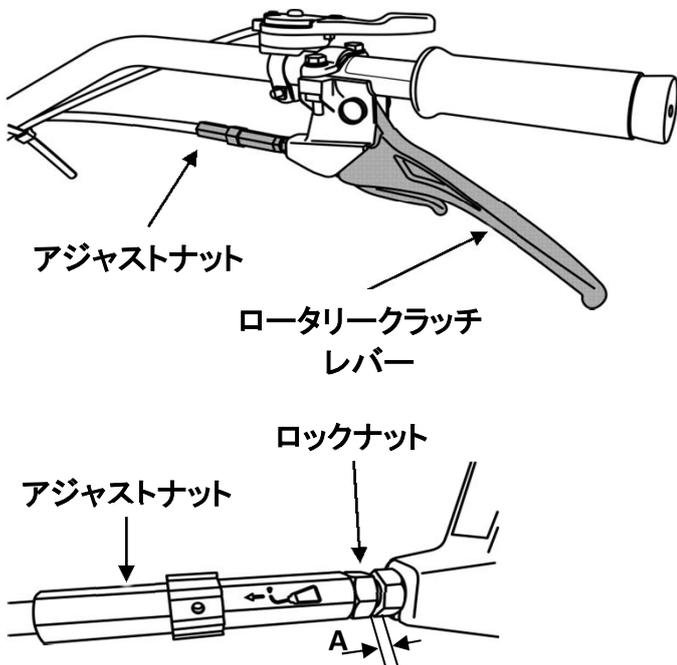
1. ベルトカバーの取付ボルトを外し、ベルトカバーを取外します。
2. プーリを止めているボルトを外し、プーリを外します。
3. ボウゴカバーの4本のボルトをゆるめます。調整後は確実にボルトを締付けてください。
4. エンジンを固定しているボルトをゆるめて調節します。調節後は確実にボルトを締付けてください。

重 要

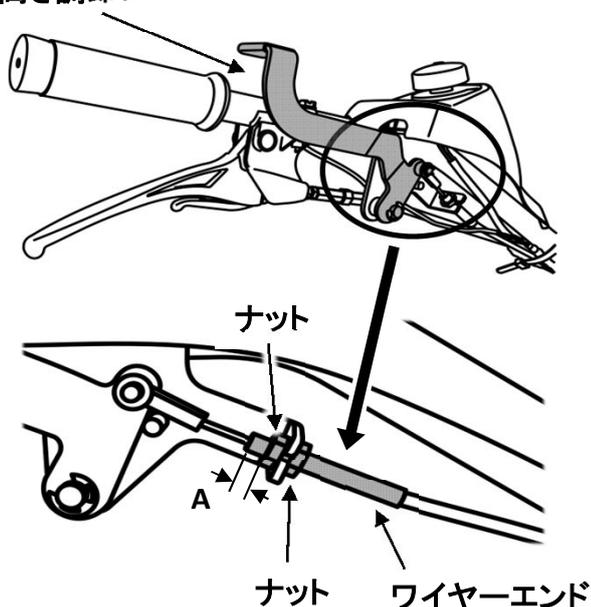
※ 使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調節してください。
※ 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]・[切]が確実に作動するか確認してください。

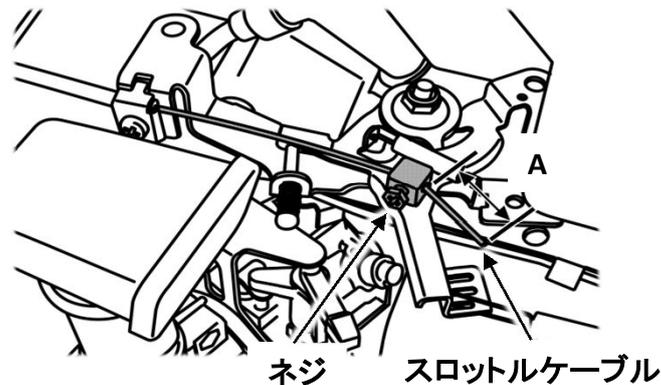
◆ 新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんですき間が約35㎜にたわむくらいにして、エンジンを固定しているボルトを締付けてください。

管理機の簡単な手入れと処置

■ロータリークラッチレバーの調整
ロータリークラッチレバーを握ったとき、クラッチの［入］［切］の調子が悪いときは、ケーブル（ロータリークラッチ）のアジャストナットでケーブルの長さを調節してください。

ベルトが滑るとき	アジャストナットのAを長くする
レバーが重すぎるとき	アジャストナットのAを短くする

調節が終わったらロックナットでしっかりと固定してください。

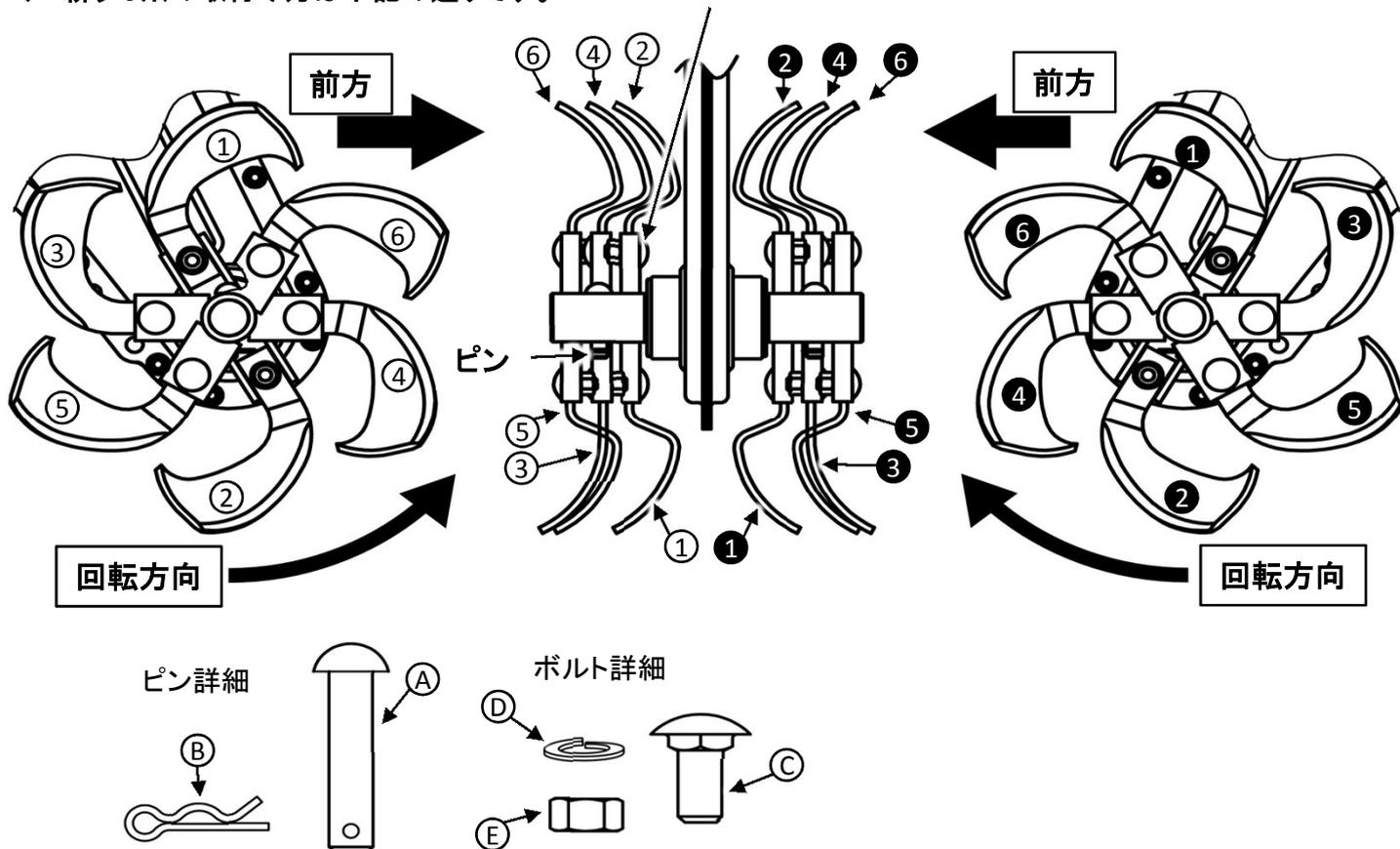
■高さ調節レバーの調整（ハンドル上下）
高さ調節レバーを握ってもハンドルが上下しない又は調子が悪いときは、ケーブル（高さ）のナットでケーブルのの長さを調節します。
ハンドルを上下にセットしたとき、ハンドル中央部にあるプレートの穴にピンが確実に入っていることを確認し、ナットで確実に固定します。

レバーが重すぎるとき	ワイヤーエンドのAを長くする
ハンドルがガタつくとき	ワイヤーエンドのAを短くする

■スロットルレバーの調整
スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上らないときは、スロットルケーブルを止めているネジをゆるめて調節します。
ケーブルのAを部が長くなるように調節するとエンジン回転数が高くなります。
調整にあたっては、購入先にご相談ください。

管理機の簡単な手入れと処置

■耕うん爪の取付け方

⚠ 警告

※　爪の交換時は、エンジンを停止してください。
※　爪交換時はロータリーに付いた土を落とし、ロータリー部が落下しないようにしてください。
※　上記の手順をおこたると、傷害事故の危険があります。

◆　耕うん爪の取付け方は下記の通りです。

※　紛失、消耗の場合は品名、品番を購入した販売店に伝え注文してください。

番号	品番	品名	個数
③	220431030604000	ツチアゲツメ　V35　ヒダリ	1
❸	220431030605000	ツチアゲツメ　V35　ミギ	1
①②④⑤⑥	220431030606000	ヘンケイツチアゲヅメ　V35　ヒダリ	5
❶❷❹❺❻	220431030607000	ヘンケイツチアゲヅメ　V35　ミギ	5
Ⓐ	282130000419000	マルピン　φ10	2
Ⓑ	0551571000	スナップピン　10	2
Ⓒ	082130000417000	ツメトリツケボルト	12
Ⓓ	0451270100	バネザガネ　M10	12
Ⓔ	0211870100	ロッカクナットM10×1.25	12

◆　締付トルク

48.0～55.9N・m

重　要

※　爪の内外の向き、並び及び種類を間違えないようにしてください。
※　作業前のは爪の取付ボルト・ナットにゆるみがないか確認し、増締めをしてください。
※　爪を交換後は、ボルトを確実に締めてください。

管理機の簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないように油やグリスを塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますのでよく点検・清掃を行なってください。

重　要

※　水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が入らないように気をつけてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重　要

※　コックを開いたまま保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■長期保管時の手入れ

注　意

※　カバーをかけたり、納屋に保管するときは、火災の恐れがあるため、エンジンが冷えてから行なってください。

※　燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発、火災の恐れがあります。

1. 主クラッチレバーは[切]の状態にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレターフィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。
   (1ヶ月以上使用しないとき)
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントをきれいに掃除しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ、湿気や草、ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重　要

※　ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

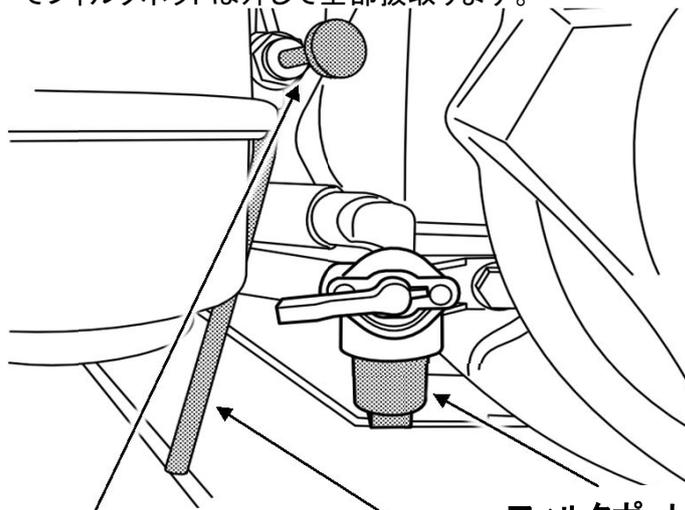
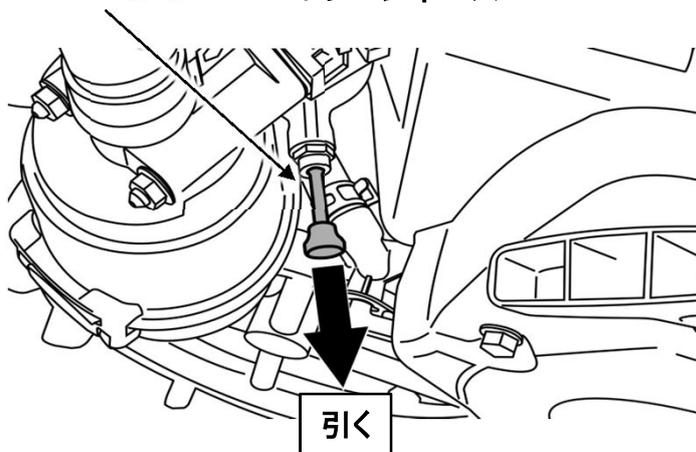
■燃料の抜取り

注　意

※　燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。

※　火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対に行わないでください。

※　燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

1ヶ月以上使用しないときは、燃料タンクのガソリンはポンプなどで抜取り、キャブレター内は排出つまみを引いてフィルタポットは外して全部抜取ります。

重　要

※　燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

管理機の簡単な手入れと処置

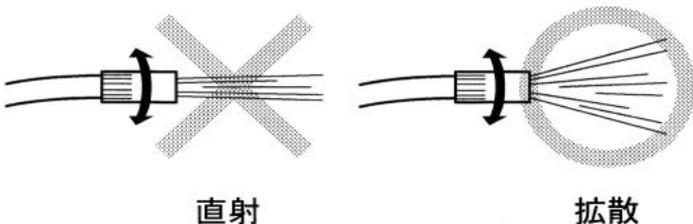
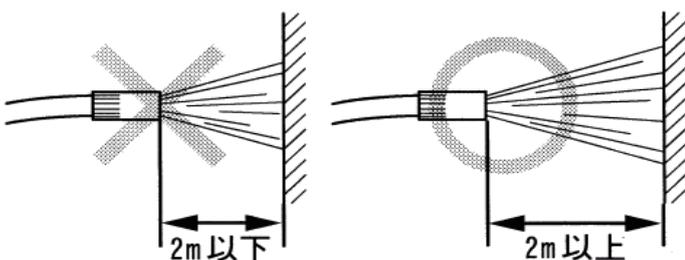
洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱い説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注 意

機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散にし2m以上離して洗浄してください。
もし、直射したり、不適切な近距離から洗車すると、
1．電気配線部被覆の破損・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
2．機械の破損・損傷・故障原因になります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）（1）シール・ラベルの剥がれ。
（2）電子部品・エンジン等への侵入による故障。
（3）車輪、オイルシール等のゴム類樹脂類等の破損。
（4）塗装、メッキ面の皮膜剥がれ。

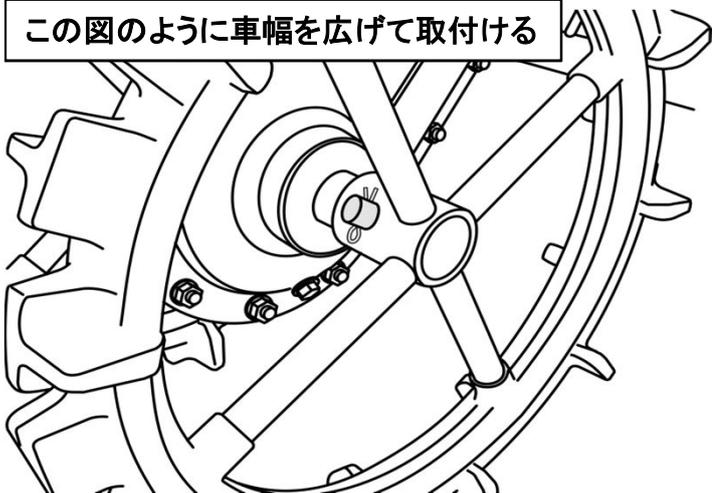
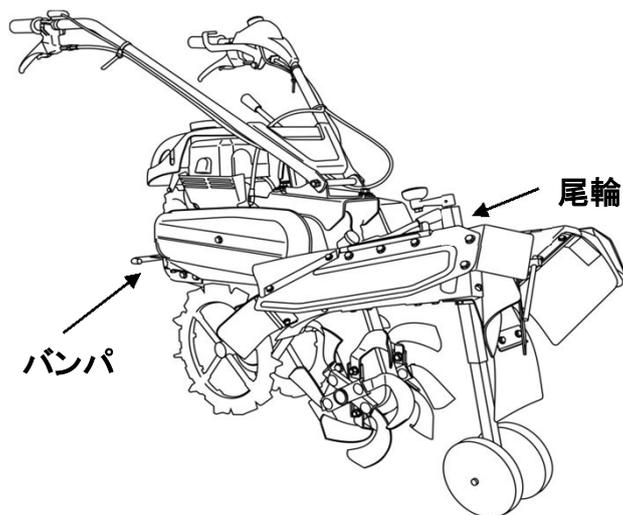
直射洗車厳禁

直射　　拡散

近距離洗車厳禁

管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬

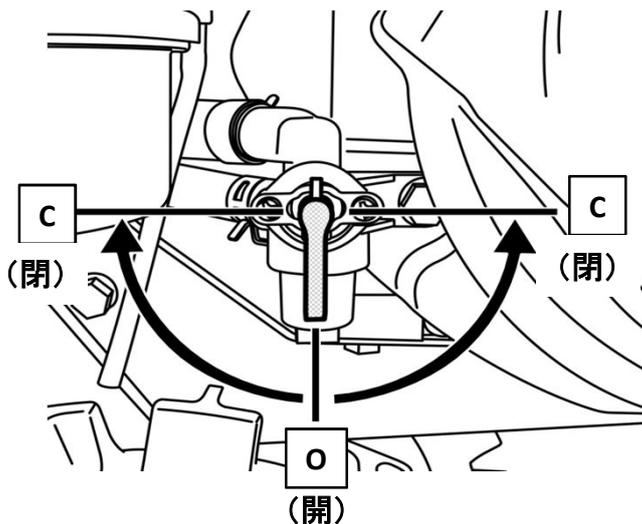
注 意

※ 積込み、運搬は平坦な交通のじゃまにならない安全な場所で行ってください。
※ アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対してアユミの長さ[4以上]のものを使用し、確実に固定してください。
※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で行なってください。
※ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒の恐れがあります。
※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむ恐れがあります。
※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災の恐れがあります。

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは[1速]で、下りは[後進]にします。
4. 運搬時は車輪幅を広くし、尾輪を上げ爪と車輪がしっかり床面に着くようにします。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。

6. 機体にロープを掛けるときは、バンパ・尾輪の2箇所を固定してください。

7. 燃料コックレバーを[閉]にします。
8. 雨天時はエアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせてください。

重 要

※ ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないよう気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
※ エアクリーナの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
※ 燃料コックレバーを[開]いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。

付表

主要諸元

区分	項目		値
販売型式名			K550N-D
機体寸法	全長　(mm)		1370
	全幅　(mm)		560
	全高　(mm)		979
機体質量(重量)　(kg)			66
エンジン	型式名		GB130LN-386
	種類		空冷4サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン
	総排気量　(L{cc})		0.126(126)
	連続定格出力(kW{PS}/rpm)		2.3(3.1)/1800
	使用燃料		自動車用無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量　(L)		1.2
	始動方式		リコイルスタータ式
走行部	車輪(タイヤ)		ゴムラグ車輪(直径320mm)
	輪距(外幅)　(mm)		94(最大178)
	主クラッチ方式		ベルトテンション
	変速段数　(段)		前進2段、後進1段
	走行速度	前進(km/h)	0.9(1速)2.9(2速)
		後進(km/h)	0.8
	車輪の形状・寸法(mm)		丸軸・直径25
ロータリー	変速段数　(段)		高速1段、低速1段　計2段
	爪軸回転数　(rpm)		325(低速)682(高速)
	耕幅　(mm)		200
	爪回転径　(mm)		300
	爪軸の形状・寸法　(mm)		丸軸・直径25

※1. この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

※2. 機体寸法はハンドル高さ4段目(上から2つ目の穴)のものです。

走行速度一覧表

区分	項目		
販売型式名		K550N-D	
変速		前進2段　後進1段	
エンジン出力軸回転数(rpm)		1800(連続定格出力時)	2000(最大)
前進1速　(km/h)		0.9	1
前進2速　(km/h)		2.8	3.1
後進　(km/h)		0.7	0.8
条件	プーリ外径　(mm)	ϕ75.1、ϕ130	
	車輪	ゴムラグ車輪(直径320mm)	

付表

標準付属品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧

品名	品番	数量	備考
Vベルト SB-37	0751310037	1	
ケーブル(シュクラッチ)	220230000303000	1	
ケーブル(ロータリクラッチ)	220230000314000	1	
アイロック	043641250212000	1	ケーブル締結部品
ケーブル(スロットル)	220200000312000	1	
ケーブル(タカサ)	220200000316000	1	
エンジンスイッチ	236800000362001	1	
ワイヤーハーネス	220230000316000	1	
ゴムラグシャリン φ320	220200000401000	2	
マルピン φ10	282130000419000	4	ゴムラグ車輪、爪軸用
スナップピン 10	0551571000	4	ゴムラグ車輪、爪軸用
オイルシール TCD254713	0955254713	4	耕うん軸、車軸用
ゴムセン 2	111110110218002	1	ミッションオイル給油口
ツメジクケツゴウ	220431030601000	2	
ツチアゲツメ V35 L(ヒダリ)	220431030604000	3	
ツチアゲツメ V35 R(ミギ)	220431030605000	3	
ヘンケイツチアゲツメ V35 L(ヒダリ)	220431030606000	3	
ヘンケイツチアゲツメ V35 R(ミギ)	220431030607000	3	
ツメトリツケボルト	282130000417000	12	爪取付用
バネザガネ M10	0451270100	12	爪取付用
ロッカクナット M10×1.25	0211870100	12	爪取付用

トラブルと対処

■エンジンが始動しないとき

原　因	処　置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。（12ページの「運転のしかた」を参照）
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。または新しいものと交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた（閉じた）状態でリコイルを何度も引きガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し（開き）リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しいものと交換する。
● 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しいものと交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原　因	処　置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた（閉じた）まま運転している。	チョークを戻す（開く）。
● フィルタポッドに水やゴミが混入している。	ポットを外して掃除する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して掃除する。
● スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる、異音が発生する。

原　因	処　置
エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドル締付ボルトを締め直す。 ジャッキボルトを締め直す

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、
納期等でご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、
供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、
納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。